

<2022年度>

第8回理事会議案書

2023年 1月 20日

一般社団法人 全国鐵構工業協會

2022年度 第8回理事会 議事次第

一般社団法人 全国 鐵 構 工 業 協 会

場 所： 鉄鋼会館 802号室

日 時： 2023年1月20日（金）
12:30～14:30

1. 開会の辞

2. 定足数確認報告（定款第36条）

3. 会長挨拶

4. 前回理事会議事録の確認

5. 審議事項

第1号議案 鉄骨技術研究開発助成制度(継続)の件 ----- [理 22-8-議 1] (p3-)

第2号議案 鉄骨技術研究開発テーマ(全構協実施型)可否の件 ----- [理 22-8-議 2] (p6-)

6. 報告事項

(1) 特定技能外国人材への対応について ----- [理 22-8-報 1] (p15-)

(2) 委員会等活動状況報告

① 中期ビジョン検討委員会 ----- [理 22-8-報 2①] (p17-)

② 人材育成委員会 ----- [理 22-8-報 2②] (p19)

③ 創立50周年記念事業準備委員会 ----- [理 22-8-報 2③] (p20)

④ 技術委員会 ----- [理 22-8-報 2④] (p21)

⑤ 運営委員会 ----- [理 22-8-報 2⑤] (p22)

⑥ 技術者WG、技能者WG（メンバー） ----- [理 22-8-報 2⑥] (p23)

(3) 「社長の右腕育成研修会」(主催:鉄骨技術者教育センター)について ---- [理 22-8-報 3] (p24)

(4) 支部の位置付け(税務、組織等)明確化について ----- [理 22-8-報 4] (p25)

(5) その他

① 青年部関連（事後アンケート、連携活動に関する検討） ----- [理 22-8-報 5①] (p26-)

② 委員会（WG）関係情報の管理について ----- [理 22-8-報 5②] (p32)

7. その他の定例報告事項

(1) 構成員登録状況 ----- [理 22-8-他 1] (p34-)

(2) 着工面積と推計鉄骨需要量 ----- [理 22-8-他 2] (p39)

(3) 主要会議日程 ----- [理 22-8-他 3] (p40)

(4) 支部報告 ----- [理 22-8-他 4] (p41-)

(5) その他

8. 閉会の辞

以上

第1号議案： 鉄骨技術研究開発助成制度（継続）の件

「鉄骨技術研究開発助成制度」については、3年毎に制度の継続可否を検討することが運用規程に定められております。2023年度（令和5年度）以降の制度継続に関する検討に際し、合わせて運用規程の見直し〔議案書〔理22-8-議1〕(p3-5)〕を行いたく、ご審議のうえ承認いただきたい。

第2号議案： 鉄骨技術研究開発テーマ（全構協実施型）可否の件

「鉄骨技術研究開発助成制度」運用規程に基づき、1月11日に開催した選考委員会において可否検討された案件〔議案書〔理22-8-議2〕(p6-12)〕に関し、全構協実施型の検討対象とすることについて、ご審議のうえ承認いただきたい。

【理22-8-議1】 第1号議案

2023年1月20日

「鉄骨技術研究開発助成制度」の運用規程の改正について

2023年度「鉄骨技術研究開発助成制度」につきましては7月号会報でも案内をしておき、現在応募受付を行っております。運用規程第10条におきまして、3年ごとに継続実施するかを検討することとなっています。運用規程の改正案を纏めましたので、下記の様に変更するかについて審議をお願い致します。

【選考実績】

これまでに2017年度2件、2018年度1件、2019年度3件、2020年度1件、2021年度1件、2022年度1件の計9件が会員応募型として採択され、また、全構協実施型として1件が実施済みです。

【改正理由】

- ・直近の3年は応募テーマが1件であり、継続的テーマに限定されている。
- ・助成金が1/2以下であり、実施者の研究開発費の負担が大きい。
(公的な助成制度でも2/3から100%助成が多くなっている。)
- ・研究成果の論文投稿が実施者の負担となっており、学術的テーマでないと応募が難しい。
- ・選考委員会において、学術的テーマだけでなく実務的なテーマを受け付けられるようにした方が良いとの意見が出ている。

【改正内容】

- ① 助成金額について自己負担額以下を総額の2/3以下とする。【第5条1）】
- ② 研究成果について会報掲載および論文投稿を削除し、「全構協の構成員が利用できる資料として纏め対外発表することとする。」に変更する。【第10条の2】

別紙参照

【改正時期】

2024年度応募テーマより運用

以上

「鉄骨技術研究開発助成制度」運用規程

制定 平成 29 年 1 月 13 日

改正 平成 31 年 2 月 21 日

改正 2023 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、一般社団法人全国鐵構工業協会（以下「全構協」という）が、鉄骨技術に関する研究開発費を助成するために必要な事項を定める。

本制度の実施により、全構協構成員各社の技術開発意欲の活性化および技術力向上を図り、以って、鉄骨業界の健全な発展と社会貢献に資することを目的とする。

(助成の対象者)

第 2 条 本制度による助成対象者は、全構協構成員または正会員（県組合）とする。

(対象となる研究開発)

第 3 条 助成の対象となる鉄骨技術の研究開発は、次の事項を全て満足するものとする。

- 1) 鉄骨製作に関する「品質」「生産性」「作業性」など技術的な向上が期待できるもの
- 2) 鉄骨業界にとって有益となり得るもの
- 2 前項にかかわらず、既に研究開発されたもの、および本制度による研究成果が特定者に帰属されると思われるものは本制度の対象とならない。

(助成の種類)

第 4 条 本制度による助成の種類は次の 2 種類とし、申込方法、助成金の支払い方法など運用規則はそれぞれ別に定める。

- 1) 会員応募型
- 2) 全構協実施型

(助成の内容)

第 5 条 本制度による助成額（1 研究あたり）は次のとおりとする。

- 1) 会員応募型 →総額の2/3以下
300 万円以内かつ自己負担額以下

- 2) 全構協実施型
全額

2 全構協の年間助成総額は、1,000 万円以内とする。

(選考)

第 6 条 全構協会長（以下「会長」という）は、申込みのあった研究開発を選考するため、選考委員会を設置する。

2 選考委員会の運営細則は別に定める。

(助成可否の決定)

第7条 助成の可否は、前条の選考結果に基づき、全構協理事会（以下「理事会」という）が決定する。

(契約及び研究開発の実施)

第8条 助成を受けることが決定された者（以下「助成決定者」）は、研究開発を開始する前に、次の事項を定めた契約を全構協と締結しなくてはならない。

- 1) 研究開発の内容
- 2) 研究開発の期間
- 3) 請負費用
- 4) 権利
- 5) 前各号のほか、本契約の履行に必要な合意事項

2 助成決定者は、前項の契約に基づき研究開発を実施する。

(研究成果の報告義務等)

第9条 助成決定者は、研究成果に関する次の事項について、研究期間満了後3ヶ月以内に、選考委員会および理事会に報告しなければならない。

- 1) 研究開発の成果
- 2) 研究開発に要した費用
- 3) 選考委員会または理事会が必要と認めた事項

2. 研究成果は、全構協会報およびホームページに掲載するとともに、対外発表および論文投稿をしなければならない。

全構協の構成員が利用できる資料として纏め対外発表することとする。

—(権利)

第10条 本制度の成果物に関する報告書の著作権は全構協に帰属するものとし、知的財産権については別に定める。

(運用期間)

第11条 本制度は、開始年度から3年毎に継続実施するか否かを検討する。

(規程の改廃)

第12条 本規程の改廃は、理事会の審議により会長が行う。

【理22-8-議2】 第2号議案

2023年1月20日

「鉄骨技術研究開発助成制度」全構協実施型のテーマ申請

「鉄骨技術研究開発助成制度」全構協実施型のテーマ申請がございましたので、テーマ採用可否について審議をお願い致します。

【提案者】 東京都鉄構工業協同組合

【テーマ】 溶接の入熱・パス間温度の管理方法について（標準積層図の改訂へ向けて）

【内 容】 添付資料をご参照下さい。

選考委員会（2023年1月11日）でのテーマ可否検討結果：全員一致で採用

<主な意見>

- ・申請の記載を一部修正すべき（タイトル、学術的根拠の有無など）→修正済み
- ・溶接条件のパラメータを計画に盛り込むほうが良い
- ・中間層入熱の平均値管理など、マニュアル改定時に反映すべき事項もある

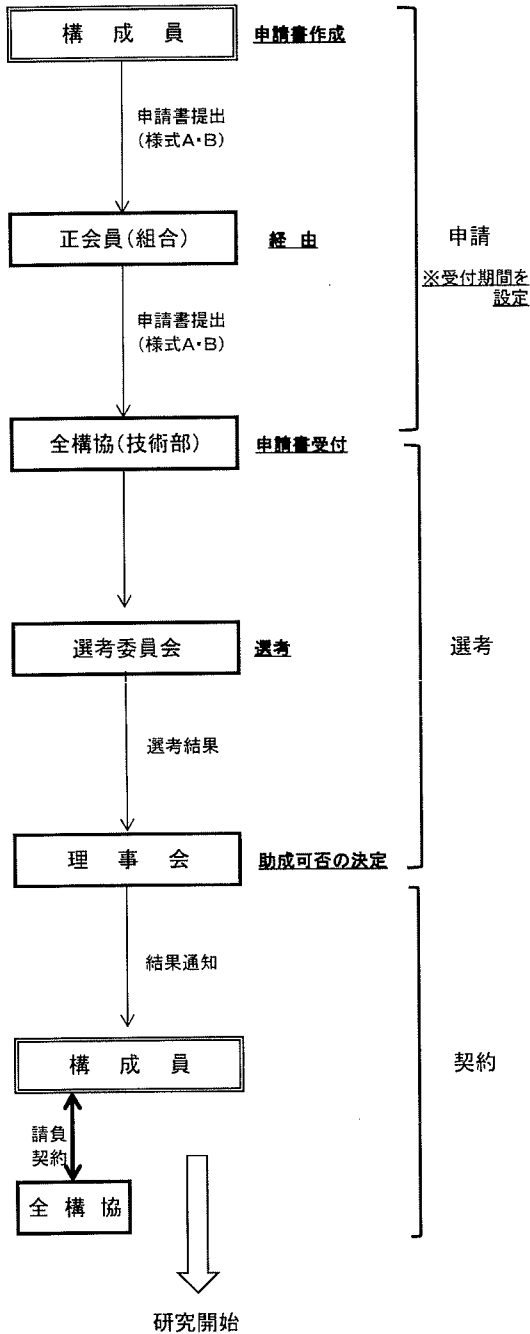
【実施時期】

2023年3月から実施予定

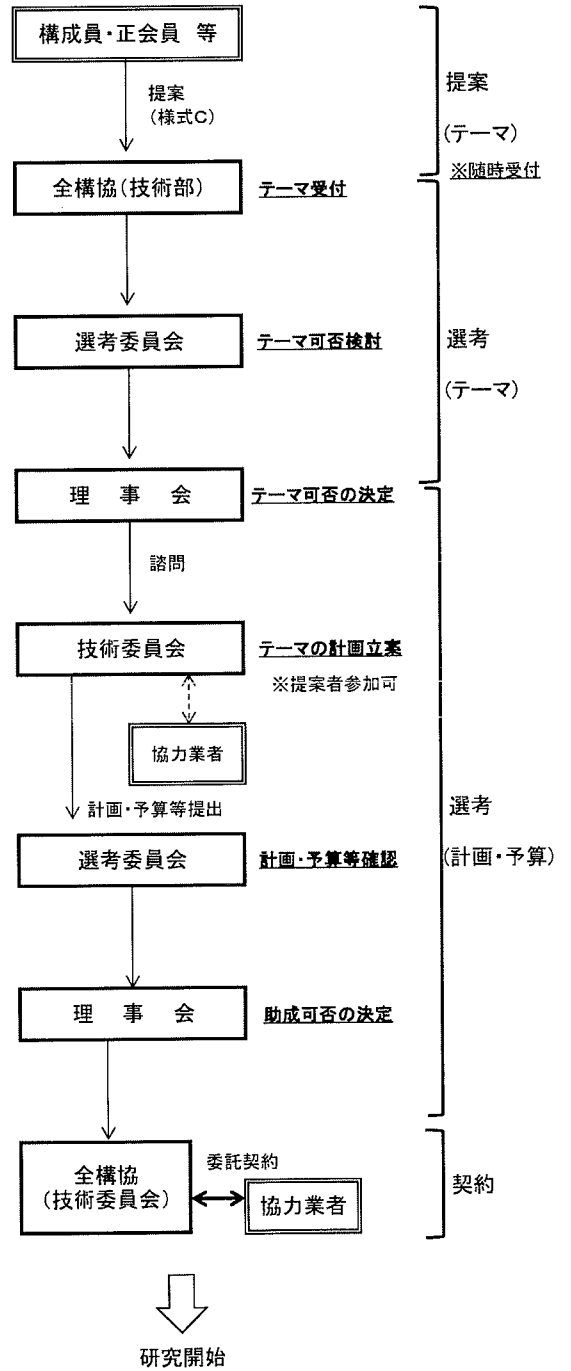
以 上

「鉄骨技術研究開発助成制度」の申請フロー

会員応募型



全構協実施型



(様式C)

全構協技術部 宛

FAX: 03-3667-6960

E-mail gjjutsu@jsfa.or.jp

送付年月日 2023年1月12日

「鉄骨技術研究開発助成制度」(全構協実施型) 提案書

テーマ名	溶接の入熱・パス間温度の管理方法について (標準積層図の改訂へ向けて)			
概要 ・ 期待される効果	<p>入熱・パス間温度の管理は溶接金属の強度低下・脆化を防止するための指標ではあるが、本来溶接金属の強度は溶接金属の化学成分と冷却時間によって決まるものであり、溶接の積層方法が重要である。冷却時間は板厚、パス間温度、入熱量より推定され、母材及び溶接ワイヤーの化学成分と入熱量から溶接金属の強度を推定することが可能である。(資料1参照)</p> <p>全構協の標準積層図は一例として提示しているものであり、実際には各鉄骨製造工場が板継の溶接施工試験を実施し、自社の溶接施工要領を作成している。しかし、M、R、Jグレードの工場ではほとんど同じような設備であり、溶接条件が同様であれば共通の標準積層図を使用する可能性もある。</p> <p>学識者との協議、実験に基づき標準積層図例を作成している組合もある。全構協全体として利用できる積層標準図例にすることは各鉄骨製造工場に対してもメリットとなる。(資料2参照)</p> <p>上記のような根拠を元に標準積層図を活用することにより、各鉄骨製作工場での溶接条件に見合った標準積層図が作成可能となり、裏付けのある溶接金属の品質管理が行える。更に、実物件において標準積層図に基づき入熱量やパス間温度の管理をすることで強度が確保されていることを検討・確認できるようになる。</p> <p>以上のメリットを得るために種々の溶接条件における標準積層による溶接入熱と強度の実証実験を行い、溶接条件に応じて必要な溶接強度が確保できる標準積層図例を作成し、共通の溶接施工要領書として協会構成員が利用できるようにする。</p>			
提案者	フリガナ	(トウキョウテッコウコウギョウキョウドウクミアイ)		
	会社名	東京鉄構工業協同組合		
	フリガナ	ヨシオカ シンゴ	部署	
	連絡担当者名	吉岡 晋吾	職位	理事長
	住所	〒 104-0032 〒 104-0032 東京都中央区八丁堀3-9-5		
	電話	03(5566)1595	FAX	03(5566)1597
	E-mail	jimukyoku@tsfa.jp		

【注】申請書に記入された個人情報、この制度の選考及び選考結果の通知のためにのみ使用します。

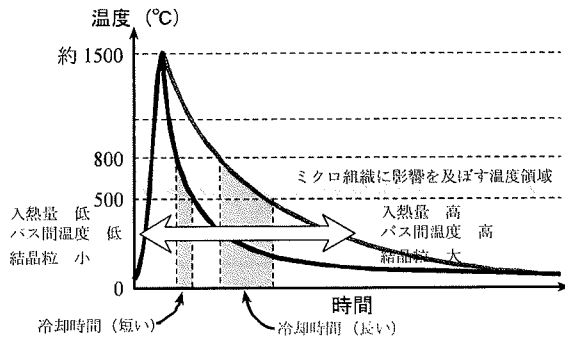


図 6-1 冷却時間が溶接金属強度に与える影響

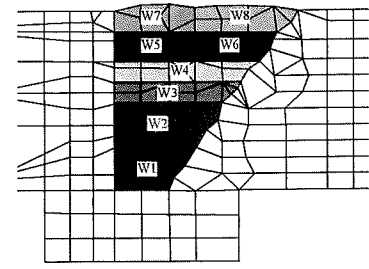
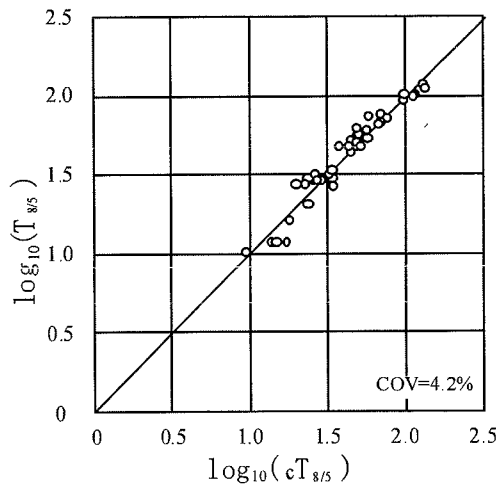


図 6-2 有限要素解析の積層モデル

まず最初に、有限要素法を用いて溶接の積層過程を数値シミュレーションし (図 6-2)、各パスの 800°C から 500°C までの冷却時間の重みつき平均値として溶接部の冷却時間を求め、その結果を板厚、入熱、パス間温度を変数とした回帰分析を行い、極めて簡便な冷却時間の推定式を得た (図 6-3)。次いで、化学成分の異なる多数の溶接ワイヤを用いて、入熱とパス間温度を変化させた溶接施工試験を行い、溶接金属の引張試験と化学成分の分析を行った。それらの結果を基に、冷却時間と炭素当量を変数とした溶接金属の引張強さと降伏点を推定できる式を提案した (YGW11 の引張強さ評価式の例を図 6-4 に示す)。



t : 板厚 (mm)
 IT : パス間温度 (°C)
 HI : 入熱量 (kJ/cm)
 Ceq : 0.305~0.336(%)

$$\log_{10}(cT_{8/5}) = -0.012(t) + 0.0027(IT) + 0.020(HI) + 0.55$$

図 6-3 溶接金属の冷却時間の推定

得られた式はこれまでのどの推定式よりも一般性があり、かつ推定精度は非常に高いが、溶接金属の化学成分が分らなければ、計算できない。そこで、Si、Mn の溶接金属の歩留まり (ワイヤの Si、Mn は溶接の過程で酸化消耗して減少する) を入熱を変数として推定する方法を考えた。これらの結果を用いて、溶接ワイヤの化学成分、板厚、入熱、パス間温度が分れば、簡単な四則演算で溶接部強度が推定できる式を作った (図 6-5)。結果の一例は図 6-6 に示すような簡単なチャートで示すことができる (この図は、日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工場製作編」に載っている)。この推定式およびチャートにより、溶接ワイヤの化学成分が分れば、予定している溶接条件によりどの程度の強度が出るかを安全側に予測できるので、梁フランジの実勢値 (ミルシート) と比べることにより、本当に溶接金属がオーバーマッチングになってい

るかどうかを予め知っておくことができる。単に入熱、パス間温度の管理値を守ることだけに神経質になる（あるパスの入熱あるいはパス間温度が設定値を越えたことを設計者から問題にされたことがあったと聞いた）ことは止めたほうが良い。

$$c\sigma_u = -C_{eq}(221\log_{10}(cT_{8/5}) - 1577) + 186 \text{ (N/mm}^2\text{)}$$

$$C_{eq} = C + Si/24 + Mn/6 \text{ (}\%)$$

$\log_{10}(cT_{8/5})$: 溶接金属の冷却時間

【適用範囲】

板厚：12～40mm

入熱量：15～43kJ/cm

パス間温度：150～450 (°C)

C_{eq} ：0.243～0.336 (%)

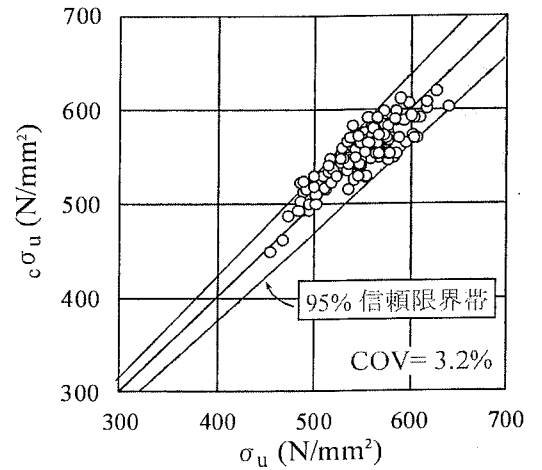


図 6-4 YGW11 の引張強さ評価式

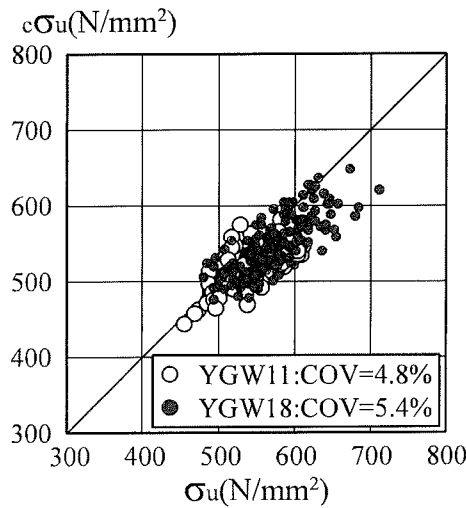
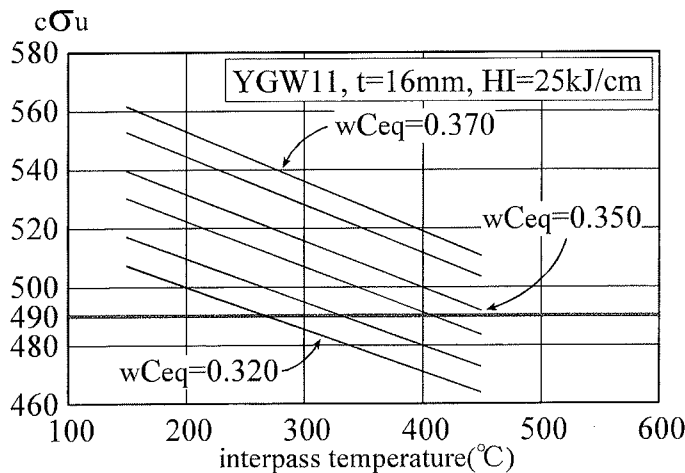


図 6-5 溶接金属の引張強さの評価

溶接ワイヤの化学成分、溶接条件が分れば、簡単に溶接金属の強度が予測できる



母材：490N/mm² ワイヤ：YGW11

入熱：25kJ/cmの場合

ルートギャップ：7mm ベベル角 35°

CO₂ ガス流量は 25ℓ/min 以上を確保

図 6-6 YGW11 の引張強さの評価チャート

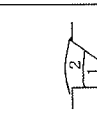
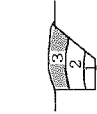
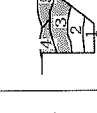
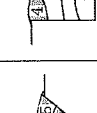
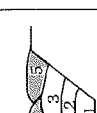
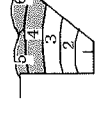

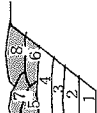

パス間温度・入熱量の管理マニュアル

1. 下向き溶接の標準溶接条件 (ワイヤー径 $\phi=1.2$ mm)

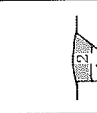
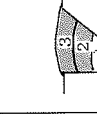
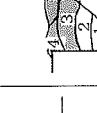
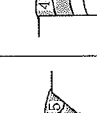

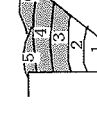
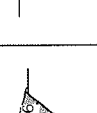
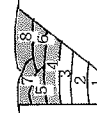
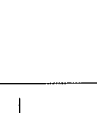
電圧 E	30~36 (V)
電流 I	270~330 (A)
ガス流量	25 (L/分) 以上
ワイヤ突出し長さ	25 (mm)

3. 標準積層図および温度管理が必要となるパスの範囲
(入熱量 30kJ/cm 以下)

■ パス間温度：350℃

									
2層 2パス 9mm	3層 3パス 12mm	4層 5パス 16mm	4層 5パス 19mm	5層 6パス 22mm	6層 8パス 25mm	7層 10パス 28mm	8層 12パス 32mm	9層 15パス 36mm	10層 17パス 40mm

■ パス間温度：250℃

									
2層 2パス 9mm	3層 3パス 12mm	4層 5パス 16mm	4層 5パス 19mm	5層 6パス 22mm	6層 8パス 25mm	7層 10パス 28mm	8層 12パス 32mm	9層 15パス 36mm	10層 17パス 40mm

2. 入熱量の管理手順

- 電圧E (V)・電流I (A)の管理
:作業開始前に捨て板にアークを発生させ、電流・電圧を確認
- 溶接速度v (cm/分)の管理
:積層方法により管理する(右図参照)
(1パスのビード幅が20mmを超えそうになったら振り分ける)
- 入熱量の確認
:右図の積層方法を満足すれば、入熱量は30kJ/cm以下となる
異なる積層を用いた場合は、下式により確認する

$$H = \frac{60E \cdot I}{v}$$

H : 入熱量 (J/cm)

E : 電圧 (V)

I : 電流 (A)

v : 溶接速度 (cm/分)

作業工程	溶接条件 3		7-5	
	内容		改定	年月日
溶接積層方法 (下向溶接)	<p>本工場の下向溶接積層方法及びパス間温度管理は下図を標準(例)とする。</p> <p>①入熱:40kJ/cm以下/パス間温度350℃以下/開先角度35°/ルート間隔7mm/溶接ワイヤ YGW11、18 1.2φ</p>			
<p>(注) 図中の斜線は、板厚に関わらず4パス目から確認する場合の例です。開先角度及び積層図、パス間温度確認パス(斜線で示したパス)は、各社で標準を定めて下さい。</p> <p>* Hグレードは板厚60mmまで可能。</p>	板厚と全パス数	標準積層図	板厚と全パス数	標準積層図
	板厚 9mm 3層 3パス		板厚 12mm 4層 4パス	
	板厚 16mm 4層 4パス		板厚 19mm 5層 6パス	
	各社で作成 (Hグレードは60mm迄)			
	板厚 22mm 6層 7パス		板厚 25mm 6層 8パス	
	板厚 28mm 7層 9パス		板厚 32mm 7層 11パス	
	板厚 36mm 8層 14パス		板厚 40mm 9層 15パス	
<p>図中の斜線で示したパスは、溶接する前に温度チョークまたは表面温度計でパス間温度を確認してから溶接する。ただし、適切なインターバルを設けるなど効率的にパス間温度を管理する作業手順を定め、行っている場合はこの限りではない。</p>				

報 告 事 項

【理22-8-報1】

特定技能外国人材への対応について

1) 特定技能外国人材<製造業分野>に関する取組み(協議)の状況

特定技能外国人材に関しては、各地域(支部等)から様々な意見が出ており、従来から協会として検討を行ってきた製造業分野(経産省ルート)について、あらためて関係省庁と協議を実施している。

<経産省(製造業分野)との折衝・協議状況>

時 期	協議内容(確認情報)
22年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・特定技能外国人材に関する情報提供要請 (全構協⇒経産省) ・外国人材の必要性、外国人材の働き方の実態等の確認 (経産省⇔全構協) ・製造業分野の位置付け、産業分類等に関する情報確認 (全構協⇔経産省)
22年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足への対応状況、外国人材(技能実習生)の状況 (全構協⇒経産省) ・特定技能外国人材に関する業種分野追加について (経産省⇒全構協) ・特定技能外国人材に関する制度(設計)の方向性 (経産省⇒全構協)
22年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人材(技能実習生)の就労状況 (全構協⇒経産省) ・対応すべき課題、スケジュール (経産省⇒全構協)

2) 外国人材の必要性(労働力不足)に関する調査 *経産省要請に基づき、2022年11月調査実施

◎回答企業数 : 1073社

①回答企業の従業員数 (内:女性、高齢者)

	2015年	2020年	(構成%)
従業員数	25,122	27,418	
内女性	2,751	3,360	12%
内高齢者	3,359	3,905	14%

②技能実習生受入状況

	2019年	2020年
受入企業数(社)	325	350
受入人数	1,763	1,786

③ 人材確保の取組み(事例) (※運営委員会に情報収集を依頼)

- ・女性応援ビデオ(鉄骨Female)の制作・展開
- ・デジタルツール開発・提供による生産性向上支援

※技能実習生は、日本人(特に若手作業)の人手不足環境の中、貴重(大切)な戦力

3) 建設業(国交省扱い)と製造業(経産省扱い)の業務分野の整理について

- ・現場建方で作業に従事する場合は、建設業としての登録が求められる。
- ・一方、工場内のみで業務に従事する外国人材は、製造業分野における特定技能外国人材として受入を行う必要あり。

(国交省HP内情報)

- ・一切組み立て作業を行わず、専ら鉄骨の製作、加工作業のみに従事する場合は、製造業に係る作業への従事と認められるため、建設分野における特定技能制度での受入れは適切ではない。

4) 特定技能外国人材に関する制度検討について（経産省からのヒアリング情報）

（省庁側の対応進捗）

- ・2019年に特定技能の制度がスタート、5年を節目として2023年度末に検証が行われる見込み。
現在は、検証に向けた準備として、課題の整理、状況の確認作業等が行われている模様。
- ※本制度を管轄している出入国在留管理庁(法務省外局)は、各省庁(国交省、経産省等)に対して、国民生活に多大な影響を及ぼす制度であることを踏まえ、慎重な対応を要請。

（業種分野<追加>について）

（*経産省担当者のコメント:未決定内容）

- ・事業者は、製造業か建設業どちらか、1社1業種を選択する。業種選択に際しては、会社の業務実態(分野毎の売上比率等)ではなく、外国人材に、どこで(工場or建方現場)、どの様な作業(製造or建設)に、従事して(働いて)もらうかについて、事業者が選択し登録する。
- ・就労実態が変化した場合(製造業⇄建設業等)は、一度現行登録を取消しの上、変更も可能。
- ・工場内で働く外国人材の制度対応の問題については、経産省との継続的な協議が必要。

（制度の運営管理について）

（*経産省担当者のコメント:未決定内容）

- ・業界団体は、分野区分の適切な運用を確保するため、業種区分に関する証明書の発行、許可等の業務を行う必要がある。
- ・業界全体としての管理を求められることから、構成員以外の事業者も適用対象にする必要あり。
- ※制度の運営(開始)に際しては、管理体制の構築、管理団体の設置等、業界団体に重たい責任が発生することが想定される。(覚悟が求められる)

5) 検討の見通し(スケジュール感)

- ◎技能実習生、特定技能等、外国人材に関する政府の有識者会議の初会合が12月に開催。
今後、数年かけて議論が行われる見込み。
- ◎特定技能に関しては、「特定2号関係」と「業務分野追加」の2つの問題がある。
 - ・「特定2号」の取扱いに関する議論は目の前(既に国内にいる外国人労働者)の問題であり、関係省庁には優先順の高い課題であるとの認識がある。
 - ・一方、「業務分野追加」に関する議論は、技能実習生制度等を含めた外国人材に関する制度設計全体の中で検討される可能性もあり、時間がかかる可能性のある問題。

経産省からは、下記コメントあり

(協議の中では、制度運営等の相談もしているが、)分野追加の問題は、簡単な話しではない。
現在様々な業種が追加要望を出している状況であり、鉄骨製造業分野もその内の1つ。
すぐに追加が認められる可能性は低いかもしれない、時間がかかるテーマであることを覚悟する必要がある。

以上

特定技能外国人材 検討WGメンバー

(敬称略)

	氏 名	都道府県	(役 職)
リーダー	大竹良明	群馬県	副会長

	氏 名	都道府県	(役 職)	会 社	(役 職)	グレード
メンバー	石坂 昌一	新潟県	副理事長	松大産業 株式会社	代表取締役	M
メンバー	岩井 康志	岐阜県	副理事長	三星工業 株式会社	代表取締役	H
メンバー	鶴田 陽一	福岡県	理事長	株式会社 鶴田工業	代表取締役	H

【理22-8-報2①】

〈 2022年度 〉

第3回 中期ビジョン検討委員会 議事録 (案)

1. 日 時 2022年11月16日(水) 9:30～12:00
2. 場 所 全構協：第一会議室
3. 出席者 大島委員長(副会長)、
佐藤委員(理事；北海道支部長)、三浦委員(理事；東北支部長 Web参加)、
出雲委員(理事；近畿支部長)、登尾委員(理事；四国支部長)
岩永委員(理事；九州支部長)
(事務局) 新村、瓜生

4. 議事次第

- 1) 委員長挨拶
- 2) 第2回委員会議事録の確認
- 3) 中期ビジョン検討ブレインストーミング
- 4) その他

5. 配布資料

- 1) 第2回委員会議事録(案)

6. 議事要旨

1) 大島委員長挨拶

委員長より、将来のありたい姿について2030年へ向けてのビジョンを今日からの検討で年度内に纏め、来年度に具体的なテーマへブレイクダウンすることで進めていきたいとの発言があった。

2) 第2回委員会議事録の確認

事務局より資料No.1の議事録を報告し、内容についてご確認頂いた。

3) 中期ビジョン検討ブレインストーミング

まずは業界内の現状把握としてフリーなワードを付箋に各委員が記載し、模造紙面に添付した。関連性のあるワードをグルーピングし纏めてみた。

同様の内容を外的環境についても行い、ワードのグルーピングを実施した。

事務局にて出されたワードを纏めたものを次回までに準備することとした。

各員から意見・感想は以下の通り

- ・発想の手順を1つのことから派生するワードを出してみた。偏りがあるかも知れないが、悪いところを出して改善点を見出す方法で考えた。
- ・業界として取り組むことを洗い出せばよいと思う。

- ・気づかないところが出てくるのは面白い。グループとして纏まったし、中身が種々の意見が存在している。
- ・進め方として勉強になる。3K等昔からの問題点や新しい視点もあり、環境問題など今後実行すべき内容。気づきを与えられるようなビジョンが良い。
- ・言葉だと消えてしまうので文字にするのは良い。角度の違う意見もあり、方向性を出すことが大事。将来の事業運営を含めて議論できると良い。
- ・見える化が出来て結果が楽しみである。マイナスをプラスに変えていく意見が多い。

4) 今後の進め方について

次回は強み・弱みに切り分けて同様の内容を実施し、業界の存在価値を考える。

そこからビジョンへと結びつけることとする。

2022年度内の委員会開催を下記の予定とする。

2023年2月22日(水) 9:00~12:00

2023年3月15日(水) 9:00~12:00

議論が足りない場合には別途 Web 会議を実施する。

以上

【理22-8-報2②】

人材育成委員会 (2022年度 第3回) 議事内容

1. 日 時 2022年12月14日(水) 13:00~17:00

2. 場 所 全構協 第1会議室

3. 出席者 (8名)

- ・ 大竹委員長(副会長)
- ・ 秋山委員(理事：関東支部長)
- ・ 寺田委員(理事：北陸支部長) 次世代経営者研修WGリーダー(仮称)
- ・ 柏原委員(理事：中部支部長) 教育体系検討WGリーダー
- ・ 妹尾委員(理事：中国支部長) 運営委員会委員長
- ・ (事務局) 小貫専務理事、平井事務局長、大原

4. 議事内容

(1) 次世代経営者研修WG(仮称) 寺田リーダー

- 1) 新(正式)名称 『次世代経営研修WG』 ※変更前 次世代経営者研修WG
- 2) FAB調査(1st-step 2022年10月~12月)
 - ・ Mグレード2工場、Rグレード2工場の現地調査を実施した。
 - ⇒ 『人と組織の管理』、『業務管理』を中心に、各社が抱えている課題をヒアリング。
- 3) 今後の活動方針(2nd-step 2023年1月~3月)

これらの課題に対し参考となるFABの現地調査を行い、関連するノウハウ等を獲得すると共に、研修項目としての優先順位も併せて検討予定。(2023年8月に研修開始予定)

(2) 教育体系検討WG 柏原リーダー

- 1) 教育体系の整理(1st-step 2022年10月~12月)
 - ・ 各職種 of 育成モデル作成を実施した。
 - ⇒ 技能者・技術者・管理者のキャリアアップの道程(ステップ感)をメンバーで分担し整理を実施。並行して全構協で実施した研修の棚卸しを実施。
- 2) 今後の活動方針(2nd-step 2023年1月~2月)
 - ・ 教育体系を俯瞰するため、各職種毎に必要なスキル及び資格、教材の有無等を精査し、全構協が今後取り組むべき研修を取り纏めて提言を行う。
 - ・ 成果物の三役会・理事会への報告時期は2023年3月の予定。
 - ⇒ 更に深掘が必要な場合には、活動期間を延長して対応する。

(3) 『社長の右腕育成講習会検討WG』報告 (受講生募集・研修日程等) 妹尾委員

(4) 次回の人材育成委員会 2023年2月22日(水) 09:30 於：鉄鋼会館(804)

以 上

創立 50 周年記念事業準備委員会

1. 開催日時

第 7 回 2022 年 11 月 30 日(Web 会議)

第 8 回 2022 年 12 月 20 日(Web 会議)

2. 事業内容

①記念式典・祝賀会

日時 2023 年 7 月 12 日(水)

会場 品川プリンスホテル(東京都港区高輪)

時間 式典／14:00-15:00(予定)・祝賀会／15:30-17:00(-17:30 まで延長予定)

規模 300 人程度

正会員・学識経験者を表彰(感謝状贈呈)

各都道府県組合から組合貢献者を推薦していただく(3 月推薦依頼予定)

②記念誌

内容 会長挨拶・祝辞・役員紹介・事業内容・50 年のあゆみ(年表)・各資料

特別企画(鼎談)／2 月 15 日実施

(永井会長・米森相談役・高野全鉄評社長・山口全鉄評取締役)

計／60-80 ページ(予定)

部数 2,500-2,700 部発行(予定)

発行日 2023 年 7 月末-8 月初め(式典後)

③記念事業

鉄骨業界 PR 映像作成(経過報告)

・全国から公募(3-5 人予定)

・2022 年 12 月 6 日／応募開始→2023 年 1 月 16 日／応募締め切り

現在○社応募(全構協受付分)

・50 周年委員会で出演者を決定(2 月上旬)

・全構協と出演者(各支部・組合)と打ち合わせの後、撮影(2 月下旬～5 月末)

・記念式典(祝賀会)で披露(予定)

〈 2022 年度 〉

第 3 回 技術委員会 議事録
(案)

1. 日 時 2022年12月8日(木) 13:30～17:00
2. 場 所 全構協第一会議室
3. 出席者 佐藤委員長、萩澤副委員長、西山副委員長、
船山、今泉(Web)、和田、佐野(Web)、谷本、古賀 各委員
(事務局) 新村、瓜生 欠席：山本委員

4. 議事次第

資料No.

- 1) 委員長挨拶
- 2) 前回議事録の確認
第2回技術委員会議事録案・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 1
- 3) 認定工場の技術者・技能者の資格有効期限を含めた一覧表の管理について
技術者・技能者一覧表(案)・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 2
- 4) CADソフトの調査依頼について
JSSCからの調査依頼内容紹介・・・・・・・・・・・・・・・・ No. 3
- 5) その他
次回開催について
- 6) 委員長講評

5. 議事要旨

- 1) 委員長挨拶
- 2) 前回議事録の確認
- 3) 認定工場の技術者・技能者の資格有効期限を含めた一覧表の管理について
確認方法：一覧表作成の有無の確認(提出は求めない)
確認時期：認定3年目の工場対象に品質体制確認時に併せて実施
事務局にて作成した一覧表(事例案)を基本とし、工場審査時に必要な資格を優先に
して、他の資格についても載せておき工場ごとで使用時に省けるようにしておく。
次回までに最終案を事務局より委員へメール送信する。
事例案は全構協ホームページに掲載し、組合へメール周知を行う。
- 4) CADソフトの調査依頼について
他団体の調査事例を資料 No. 3、追加資料にて事務局より説明した。
CAD要員、使用ソフト、台数、自社or外注、受け渡しデータ形式など委員より提案の
あった調査項目を事務局で纏め、次回調査項目案として提出する。
- 5) その他
①次回開催について 2月22日(水)13:30～17:00
- 6) 委員長講評

以上

【理22-8-報2⑤】

<2022 年度>

第2回運営委員会 議事要旨 (案)

I. 日時 2022年12月1日(木) 15:00:~17:00

II. 場所 Web 会議

III. 出席者 (敬称略)

委員 妹尾委員長

猪股・村岡両副委員長

竹原・山田・西井・松枝・益田・渡辺・鴨林各委員

全構協 小貫専務理事

(事務局) 平井、中村(文責)、滝本

IV. 議事要旨

1. 妹尾委員長挨拶

当初は実開催の予定であったが、現時点で全構協会長から委員会への新たな諮問事項がなく、議題が報告事項のみとなったため、やむなく Web 開催となった。本日もよろしくお願ひしたい。

2. 前回議事録確認(資料1)

事務局から読み上げ確認し、了承された。

3. 報告事項

1) 業績等調査アンケート集計結果報告について(資料2)

本年7月に実施した調査の全体版の結果について、11月開催の全構協理事會にて報告し、その後各県組合を通じて構成員に結果報告を依頼した旨事務局から報告した。

また、来年度の調査実施に向けた意見交換を行い、調査項目や調査結果の活用等について、次回の委員会にて検討することを確認した。

2) 特定技能外国人材に関する状況について

経済産業省との協議の状況について、事務局から説明した。

その協議において、経済産業省から業界の実状調査の依頼があり、運営委員に協力頂いた調査結果(資料3)を事務局から報告した。

また、上記調査後に追加で調査依頼があり、再度協力を依頼した。

4. その他

1) 委員会に関する事項等について、意見交換を行った。

2) 今回の議事の内容に関する支部報告の可否について、妹尾委員長から確認があった。

3) 次回委員会は現時点で2023年3月6日(月)に開催予定とし、その前に委員会を開催する必要が生じた場合には、改めて日程を調整することとした。

以上

【理22-8-報2⑥】

(仮称) 鉄骨技術者WG

(敬称略)

<目的>

「鉄骨製作管理技術者」の資格を他業界からも認められる資格とし、社会的価値を向上させる。

メンバー	役職	氏名	会社	グレード
WGリーダー	近畿支部長	出雲 津芳	株式会社出雲建設	H
メンバー(北海道)	北海道鉄骨部会幹事	成澤 則充	株式会社ナリテツ	M
メンバー(関東)	東京都理事	池田 和隆	池田鉄工株式会社	M
メンバー(近畿)	滋賀県副理事長	大井 民生	株式会社大井鉄工所	H
メンバー(九州)	鹿児島県副理事長	稲森 一博	双葉鉄工建設株式会社	M
アドバイザー	山形県副理事長	板垣 昌之	株式会社イタガキ	H

(仮称) 鉄骨技能者WG

(敬称略)

<目的>

鉄骨製造業における独自の技術・技能を明確にし、その技術・スキルの向上を図ることで業界としての技術力を対外的にもアピールできるようにする。その結果として外国人受け入れの特定技能の資格要件としても使える資格制度を造ることも視野に入れる。

メンバー	役職	氏名	会社	グレード
WGリーダー	関東支部長	秋山 順一	株式会社コスゲ	H
メンバー(東北)	秋田県理事長	齋藤 靖	興栄建設株式会社	H
メンバー(四国)	高知県副理事長	谷脇 鉄男	有限会社熊谷鉄建	M
アドバイザー	千葉県理事長	栗原 宏	栗原建工株式会社	M

正会員 理事長・会長 殿
正会員 専務理事・事務局長 殿
各都道府県 青年部組織代表 各位

一般社団法人全国鐵構工業協会
会 長 永 井 毅
【公印省略】

「第1回及び第2回社長の右腕育成講習会(主催:鉄骨技術者教育センター)」 受講者の推薦・登録の依頼について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、標記講習会を別紙「開催のご案内」に基づき実施することと致しました。案内が遅くなりましたが、出来るだけ多くの方々に参加して頂きたいと存じます。

つきましては、下記の通り貴団体所属構成員企業の社長の右腕(幹部)各位の中から受講者を推薦・登録頂きたく、ご依頼申し上げます。 敬具

記

1. 日 程

- 第1回 2023年2月11日(土) 受付8:30 ~ 2月12日(日) 終了予定17:00
- 第2回 2023年3月25日(土) 受付8:30 ~ 3月26日(日) 終了予定17:00

2. 場 所 アワーズイン阪急 〒140-0014 東京都品川区大井1-50-5 (Tel.03-3775-6121)

3. 推薦・登録要領 対象者等別紙「開催のご案内」のとおり

- (1)推薦人数 各都道府県1~2名(第1回・第2回選択制)
- (2)推薦対象 鉄骨関連業界の中・小規模会社で経営全般にわたって社長を補佐する立場にある方
- (3)推薦・登録方法 別紙「受講者登録申込書」にデータを入力し、以下アドレスまで送信下さい。
※複数人の場合は1名毎に申込書を作成願います。(E-mail: info@seec.or.jp)
- (4)推薦・登録期限 **2023年1月19日(木曜)**
- (5)費用 **受講料:税込99,000円(講習費用90,000円+消費税10%9,000円)**
※講習費用には、受講料、テキスト代、昼食弁当代(2回)、懇親会費用(1日目)が含まれております。
※交通費及び宿泊については各自手配・負担ください。
- (6)補助金 講習料の約半額を補助致します。(受講者には税込44,000円の負担を頂きます)
税込55,000円を、受講後に貴組合口座へ入金いたします。
- (7)その他 受講登録受理次第、鉄骨技術者教育センターから直接受講者へ受講料納入方法、研修当日の集合時間等、研修実施に係る詳細事項についてご連絡致します。
- (8)窓口 全構協総務部

3. 問い合わせ先

カリキュラム詳細等につきましては鉄骨技術者教育センター(山田)までお問い合わせ下さい。
電話 03-6661-2255 E-mail: info@seec.or.jp ※受講者登録申込書も左記まで送信下さい。

以 上

【理22-8-報4】

支部の位置付けの明確化について

1) 検討の目的・趣旨

- ① インボイス制度の開始に伴い、支部が事業主体(課税事業者)になることも想定されることから、あらためて税務における支部の位置付けを整理する。
- ② 全構協の事業活動の充実のためには、各地域のニーズ、状況等に関する情報の収集と伝達が重要であると考え、より一層の情報の有効活用に向けて、地域の情報集約を担っている支部の機能・役割について、あらためて整理する。

2) 検討体制・組織

本件は、全構協の事業運営全般に関わるテーマであることから、常設の委員会である「運営委員会」に諮問することとしたい。

3) 検討課題

- ・現行の、各地域における支部の責任と権限、支部が主体となり実施する事業の有無、事業実態等について、各地域の状況を確認・整理する。
- ・事業の実効性向上、運営の円滑化に向けて、あるべき支部の権限、情報伝達の方法等について、検討を行う。

4) 検討スケジュール

- ・2024年3月末までに整理し、理事会に報告を実施する。

※但し、支部の税務面での位置付けについては、インボイス制度の開始時期(2023年10月)までに整理を行う。

以上

意見交換会実施後のアンケート(結果集約)

全構協・各都道府県青年部との意見交換会(2022年度)

支部	都道府県	意見交換会での自身の発言内容 (発言の重点ポイントと、特に強調したこと)	意見交換会を踏まえ、 今後、自ら、取り組んでいこうと思うこと	意見交換会の感想 (全構協との連携に関する意見・要望・提言など)
北海道	北海道	ブロック内での青年部活動の魅力とメリットを強調する事を意識し、今後も活発な活動を継続していく為には全構協のバックアップと所属会社の理解が無いと出来ないという事。	現状、北海道ブロックから全青会に出向させて頂いている立場なので 今後は全構協、親会との連携を密に行い業界の地位向上に務めていきたい。	青年部活動を継続していく為の理解や資金援助を得られるよう情報の共有や、活動の報告を行っていきたいと思います。
東北	青森県	欠席		
東北	岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・青年部メンバーと親会メンバーの重複 ・子息世代は実務担当者も多く参加が厳しい。 ・親世代には少なからず青年部活動に良いイメージを持っていない人もいる。 ・青年部会員のみにならず県内FAB各社社員まで呼びかけを広げ新工法や新設備、安全面などで新しい試みが出た場合講演会や講習会を実施しイメージの刷新を図っています。 	左記同様	各種資格に対するの褒章はできるならば毎月の手当より一時金にした方が良いと感じている。
東北	宮城県	限られた人数を全業界・全業種が取り込みようとしているので、業界としても気を引くような魅力ある事が出来れば思う。インターシップや外部研修会への積極的に参加。	新入社員の銀行などのマナー研修会への参加も検討。	発言しやすい雰囲気、良かったと思います。今回は、青年部としても対面式の集まりが出来ていない事もあり、 各県の意見や全構協の方々の意見も聞けて貴重な会となりました。
東北	秋田県	欠席		
東北	山形県	欠席		
東北	福島県	青年部に参加できる人たちは実務者が多く、仕事があり、活動に参加できないときもある。そのため活動はある程度固定されたメンバーが行っている。 小規模工場、必要資格を更新していくのは経費がかかって負担になっている。	日本の人口が減ってきているので、鉄骨業界も縮小するのもある程度はしょうがないと思う。鉄骨の加工費が上がらなると従業員の給料もあげられない。物価が上がりに伴い経費が上がっているが、それをちゃんと加工費に反映し、給料をあげていきたい。	給料を上げて休みを増やして人材確保するのはわかりませんが、現在の鉄骨業界で可能なかは疑問です。急な工程の短縮による納期変更の対応・品質の確保のための設備投資・残業時間の制限・有給の確保などを実践していくと、小規模工場では対応が難しいと思いますので、各工場で各々できることを対応するしかないと思います。組合としてその目標を掲げるのはいいと思います。

支部	都道府県	意見交換会での自身の発言内容 (発言の重点ポイントと、特に強調したこと)	意見交換会を踏まえ、 今後、自ら、取り組んでいこうと思うこと	意見交換会の感想 (全構協との連携に関する意見・要望・提言など)
関東	茨城県	どこの都道府県さんも会員減少が進んでいる。 1. コロナ禍での青年部の活動について、前年まではなかなか対面での活動ができなかったが、今年度からは全体会議、工場見学等含め、感染防止対策をしっかりと行い、なるべく対面での活動を意識している。 2. 社員のモチベーションアップについて、資格手当の充実、また資格手当とは別に合格祝い金として特別手当の支給、若手社員同士のコミュニケーション、同世代の社員の積極的採用等でモチベーションアップにつなげたい。	会員確保のため、役職外の方にも声を掛けたい。	記載無し。
関東	栃木県	1. コロナ禍での青年部の活動について、前年まではなかなか対面での活動ができなかったが、今年度からは全体会議、工場見学等含め、感染防止対策をしっかりと行い、なるべく対面での活動を意識している。 2. 社員のモチベーションアップについて、資格手当の充実、また資格手当とは別に合格祝い金として特別手当の支給、若手社員同士のコミュニケーション、同世代の社員の積極的採用等でモチベーションアップにつなげたい。	やはり、会社・工業会において人が財産という話を聞いて改めて人材教育、人材育成という事を意識して取り組みたい。	全構協の役員、理事の方、全国の青年部会長の発言を聞いて参考になる事がたくさんありました。栃木県とは違う事、社内では取り組んでいないような事が多々あり勉強になりました。会社、青年部に持ち帰り、情報共有したいと思います。
関東	群馬県	鉄骨関係の資格取得の難易度が上がっており、講習会に参加しても不合格になってしまいうことも多い。特に初心者向けのレベル分け講習会を提案したい。	全構協でも既に計画したり実施したりしている事業が多いので、ホームページなどを確認して良いものはどんどん青年部会員にも伝えていきたい。	ウェブ会議より対面会議の方が伝わりやすいと感じた。コロナ禍であっても対面会議も定期的に開催して頂きたい。
関東	埼玉県	会社規模で違うが従業員の不足問題が青年部参加にも大きく影響してきている。	社会情勢を考えながら魅力的な会社作りを続け、事業継続の為に各県から議題が上がった事柄に取り組んでいく。	各県それぞれ多様な意見があり、改めて取り組むべき課題がたくさん見えてきた。今後色々な意見や解決策を話し合える場を提供してほしい。
関東	千葉県	・人材育成：時間・費用 基本的に各社にて対応すべき課題 (どの業界でも) NDI や WES 試験が大変。 何か対策があるとありがたい。	・資格手当等の拡充(自社として) ・青年部会の会員構成の見直し議論(千葉県) 後継者以外の会員 定年の採用 親会との重複の問題	・様々な意見が聞けて良かった。 ・ブロック単位等での対話があると発言機会が増えて良い(別の開催方法となると思いますが)
関東	東京都	工場長レベルでの意見交換会を通して、お互いの工場の課題解決につながるのではないかと 人材教育についてどうやったら仕事をおしえていけるか 各社員教育担当の育成のための『若手社員教育講習会』を開催し人材育成につなげる。	工場長レベルでのWEB会議開催 新入写真の定着と丁寧な教育 担い手確保に向けた業界のアピールと鉄骨業界を魅力的な環境や将来に取り組んでいきます。	NDI超音波検査時に使用する試験片を支部ごとと何セットが準備し、試験前のフアブにレンタルする。 ブロックごとに開催してみてもどうか
関東	神奈川県	人材教育についてどうやったら仕事をおしえていけるか 各社員教育担当の育成のための『若手社員教育講習会』を開催し人材育成につなげる。	工場長レベルでのWEB会議開催 新入写真の定着と丁寧な教育 担い手確保に向けた業界のアピールと鉄骨業界を魅力的な環境や将来に取り組んでいきます。	全構協と全青会との距離感を感じます、より一層の交流と意見交換会の実施を希望します。
関東	新潟県	資格が多く、育成前に辞める方が多い。	休日を充実させたり、働きやすい職場にしていこう。	県によって親会との連携にかなりばらつきがあると思います。
関東	山梨県	資格が多く、育成前に辞める方が多い。	休日を充実させたり、働きやすい職場にしていこう。	とても参考になりました。他県の意見を聞ける貴重な機会をありがとうございます。今後、全構協とも連携をとって情報交換や活動の共有化が出来れば良いと思います。
関東	長野県	今後の人材教育についてCAD等の初心者教育講習会(全構協・メーカー主催)の要望	各県、各事業所での人材育成や工場設備の使い方など情報交換できるようなコミュニケーションを高めて行きたい。	とても参考になりました。他県の意見を聞ける貴重な機会をありがとうございます。今後、全構協とも連携をとって情報交換や活動の共有化が出来れば良いと思います。

支部	都道府県	意見交換会での自身の発言内容 (発言の重点ポイントと、特に強調したこと)	意見交換会を踏まえ、 今後、自ら、取り組んでいこうと思うこと	意見交換会の感想 (全構協との連携に関する意見・要望・提言など)
北陸	富山県	当社所属の県認定、溶接の匠が県内の他FABに溶接指導に当社従業員が行っている。 その場合、安価な費用で現状行っているが、協会として補助等あればありがたい。	現在は、対内向きな活動が中心だが、対外に対する活動も検討しようと思う。	全国から集まって、会員から頂いている会費を使い開催されたと思うが、費用対効果が悪かったように思う。 発言者は事前に決められているなど、WEB会議でも可能な内容であったと思う。 参集で行う意味や効果をしっかりと検討していただきたい。 特に富山については、富山県鉄構工業協同組合から、独立した運営を行っており、今回の会議出席のために当各県代表同じ事で悩んでいると、感じた。
北陸	石川県	今では、行動制限はなくなりましたが、大勢で集まる所に行く事に家族や会社からの批判の声がある。	新規青年部員の勧誘。	
北陸	福井県	青年部会の存続が、難しくなってきたという事。コロナによる影響もあるが、そればかりが理由でもない。後継者不足など理由は様々だが、賛助会員企業などにも声をかけて積極的に勧誘していきたい。	どの都道府県でも青年部会員数の減少は、問題になっていることだと分かった。時代に合った活動の仕方、世代に合った活動の幅を模索しながら、業界PRをしていきたいと思えます。	県組合親会との連携をさらに密にし、存在すら知らなかった新人教育DVDを活用してみようと思えます。全構協と全青会が手を結び、業界発展の為に同じ方向を向くのは大変いい事だと思えます。
中部	岐阜県	青年部会員が減少してきており、青年部会を卒業する年齢を50歳まで引き上げて組織を成り立たせている状況にある。青年部会の会員には親組合の理事に就いている会員も在籍し、平均年齢は40代で、なおかつすでに代表者も多く青年部会の集まりとは言えない状況にある。	青年部会会長として、青年部会で所属されていない会員企業様へ働きかけ、ご子息、社員の方が会員となつていただくように取り組みます。また、そのためにも大切な人材を出してもよいと感じられる有意義でもとに研鑽できる学びの場、品位と礼節のある場へ岐阜県青年部会を醸成して参ります。	今後の人材育成に関する課題の意見交換以降について、青年部会会長としての意見よりも一会社としての論点になっていたため、いささか違和感を感じました。一会社として出席しているのではなく、青年部会会長として出席しているため、少々主旨がずれ、論点もばやけると思われます。それ以外はとて有意味で全構協で執行部として尽力されてきた方々のご意見も拝聴でき、貴重なお時間をいただきました。やはり組織的に融合して取り組むことが会の発展に寄与すると感じました。
中部	静岡県	欠席		
中部	愛知県	新入会員を増やす活動をしている。だが思うように増やせていない。当日発言できなかったが会員を増やすには親組合との連携が必要。	No2、右腕、工場長を対象とした研修を自社でも受けさせていきたい。青年部としても需要はあるはず。	青年部だけに所属している会員は全構協との関わりは少なく、情報等伝わっていないのが現状だと思います。 一方的な情報発信だけではなく何か工夫すれば青年部会員も情報等の活用が出来るのではないかと 青年部の会員に聞く組合から全構協の案内メールがきてもスルーしている人が多い。
中部	三重県	人手不足の為、教育・技能伝承が行えない。教育・技能伝承に成功している会社の事例などを紹介してほしい。	全ては、人手不足につながっているように思います。どうすれば若い子が入ってもらえるのかを考え、取り組んでいこうと思えます。	会員の6割近くが代表取締役となつていて、青年部との意見交換会というよりは、経営者同士の意見交換会となっているようにという意見が印象的でした。人手不足、後継者問題ともつながっていると思えます。

支部	都道府県	意見交換会での自身の発言内容 (発言の重点ポイントと、特に強調したこと)	意見交換会を踏まえ、 今後、自ら、取り組んでいこうと思うこと	意見交換会の感想 (全構協との連携に関する意見・要望・提言など)
近畿	滋賀県	新たな人材が入社しない中で、退職する社員の技術を活かすための必要があるが、その社員も既に何らかの役割を担っているため、負担が増える恐れがある。	資格取得へのやる気を出すために、資格給の見直しをする。	事前質問の捉え方に幅があったため、その解釈により色々な意見が聞けたので、大変参考になりました。
近畿	京都府	欠席		
近畿	大阪府	新入社員の教育を実施する前に教える側に伝え方の勉強を実施している	新入社員教育マニュアルDVDを活用すること	今回の意見交換会は大変有意義な会だったと思いました。親会との連携をもっと深めたいと思いました。
近畿	兵庫県	欠席		
近畿	奈良県	人材育成に関する課題について、若年層への育成の面で、教育マニュアル(教え方のマニュアル)が無く、統一した教え方が出来ない。工事ごとにその都度対応しているが、共通の指導方法がない。教える側の熟練工による指導内容にバラつきがある為、教育マニュアルが欲しい。	まずは既存のマニュアル、教育ビデオ等を組合事務局から集め、そのマニュアルに沿っての教育を進めていく。その中で弊社にあった内容を付け加え、教育マニュアルとして活用していきます。教育する側の指導スキルアップが必要で、他県で実施しているマナー研修や一般常識の勉強会を取り入れ、人材育成を進めていきます。	今回このような機会を作って頂き有難う御座います。他都道府県での取組内容や、同じような課題があることが知れて、とても貴重な時間になりました。人材育成の重要性を知り、今後力を入れていく必要があると感じました。教育資料・ビデオの存在を知らなかったため、県事務局に確認し、教育資料をフル活用して行きたいと思
近畿	和歌山県	新人教育においての教える側の勉強、変化が重要であるということ。	再度、全構協が今まで配布した教育マニュアル等の資料を確認して、県青年部の勉強材料として配布、活用していきたい。	良かったと思います。
中国	鳥取県	欠席		
中国	島根県	会員数の増強が課題。 青年部所属により形成される新しいつながりが大きなメリットである事を外部にアピールするのが重要であると考えている。	全構協(親会)で行われている実用的な事業を末端の会員まで浸透させ、役立てて行きたい。	実際に顔を合わせ話をする事により、忌憚のない意見を伝えられる良い場だと思う。 今後も密に連携し業界の発展に努めていきたい。
中国	岡山県	若年層への教え方について、今若い人が入りにくい、すぐやめるという状況のなか新しい技術や機械などを取り入れ教える方も教えやすい、若い人も業界に対するイメージが変わるようにやっていきたい。	各都道府県、若い従業員の減少もあるが会員数の減少、若い会員が入らないという意見が多かった。協会維持の為に会員への勧誘、次世代が入ってくるまでの今を会員でできる事をさがしていきたい。	全構協との意見交換、各都道府県の意見を聞くことができ貴重な経験ができた。改めて青年部に持ち帰り報告、今度は青年部で同じ議題で意見交換したい。
中国	広島県	・広島県での青年部の年齢制限や理事と兼任がNGな点 他県では年齢制限も兼任もほとんどで逆に驚いた。 ・リモート製品検査や3DCAD BIMの推進についてそれぞれメリットデメリットがある。	ほとんどの方が経営者でまた、社長が多く驚いた。同じ立場であるので他県との交流をもっと増やして行きたい。	このような機会はすてきなことだと思う。 全構協とも協力体制を取り前向きに進めたほうがいいと思う。(今までのいきさつは知らないです。)
中国	山口県	コロナ禍で青年部活動が思うようにならなかったが、今後はアフターコロナに向けて、活動を活発にしながら、なおかつ会員の皆さんについてきてもらえようように、これまで以上の呼びかけが必要になってくるということ。	米森前会長が言われていたように、新入社員等が入社した際には、今一度過去の組合資料を洗い出して、新人教育などに役立てていこうと感じた。	永井会長の対応が素晴らしい、業界全体で組合活動を盛り上げて行こうという熱意を感じた。自分もやれるだけの事をしていきたい。

支部	都道府県	意見交換会での自身の発言内容 (発言の重点ポイントと、特に強調したこと)	意見交換会を踏まえ、 今後、自ら、取り組んでいこうと思うこと	意見交換会の感想 (全構協との連携に関する意見・要望・提言など)
四国	徳島県	技術の向上や知識はもちろん必要ではあるが、現場などでお客様との直接の会話や打合せで失礼のないよう、最低限のマナーを改めて勉強する時間を設けることも大切ではあると思います。会社のイメージにも直接影響すると思うので、年齢関係なく、取り組み課題の一つではないかと思っています。	各県青年部の会員減少の意見が多く、青年部の良さはどう伝えていか、集まりやすい環境作りを、考えなければならぬと思います。	お互いが、足りない部分を補うような形で、全構協の先輩方々の培ってきた経験や技術と、我々青年部の新しい感性をうまく融合できれば、業界も盛り上がるのではないかと思います。
四国	香川県	工程・工数のデジタル管理について、作業員が一目で分かるような出来高割合や目標工数を管理できるようなシステムの導入について発言。 工務の業務削減、各工事の作業効率アップ、工程管理の簡素化ができないかと考えた。	どの青年部も同じで高齢化してきているので、若手部員の入会に力を入れることにより、新たな意見・考えなどを吸収し青年部の発展と業界の発展につなげて行きたい。	全構協の方々も私と似たような年齢の時には同じような悩みがあったことを知り、その時の対処方法、経験を聞くことができた。 各県青年部との交流で横の繋がりを強くすることができた。
四国	愛媛県	欠席		
四国	高知県	働き方改革を行い、週休二日制の採用や残業時間の短縮など作業環境の改善が大切になってくると思います。	面接時に教育担当社員を参加させるという意見がありましたが、自社でもやっけていこうと思います。	各県代表者の意見が聞けて良かったと思います。自身が考えていた問題と同じような意見が出たりして今後の参考になりました。
九州	福岡県	全国的に業界の情勢を把握したい。人手不足解消に向けて各社の取り組み賃金体系について	親会と青年部との連携を図ることにより全構協が取り組まれている事業を理解し活用し、今後の各社の事業の発展につなげていきたい。 全国会同志が集うことにより懇親会を通じて業界の悩みについてお話しする機会が出来てよかったです。	全構協の素晴らしい取り組みを少しは理解することが出来ました。
九州	佐賀県	若手社員の教育の強化。幅広い視野を持ってもらうために、魅力ある研修会を開催してもらいたい。	社員教育の大切さ、魅力ある会社作りが必要だと感じました。	記載無し。
九州	長崎県	働き方改革なので若者の仕事に対する考え方が変わってきているので、職人育成、技能伝承については難しくなってきた。	今後は更に働き手の減少が加速していくかと思われ、先で職人育成、技能伝承に重点をおき数年先を見据えた動きを取っていかうと改めて思いました。	全構協（青年部）で業界のPR活動をもっと広げて働き手の減少に努めていきたい。例：会社説明会などに出て出向き業界のPRを行う。業界の知名度を上げることが大事になってくると思います。
九州	熊本県	新人教育・研修等の中で疑問を持つことが大切だと誰もが思っているが、指導者の目を気にして理解できていない。でも、分らないと言えない。その場で疑問に思ったことを解決できていないのが現状。対策として、この仕事・作業の必要性、大まかな工程・ポイントの説明をすることにより、実践するうえでの不安や疑問を解消することができ、成功体験が増えれば自信や意欲も湧き、自発的に行動できるようになるのではと考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成のために必要な交流。 ・意見交換会で皆様からお聞きしたことを会員に伝える情報・内容の共有を図る。 ・部会員からの事業アンケート(見学会・勉強会の希望)を基に事業を行う。 	他県青年部会の活動状況、今後の人材確保と人材育成・教育について様々な意見・考え方を思いを聞くことができ大変参考になった。

支部	都道府県	意見交換会での自身の発言内容 (発言の重点ポイントと、特に強調したこと)	意見交換会を踏まえ、 今後、自ら、取り組んでいこうと思うこと	意見交換会の感想 (全構協との連携に関する意見・要望・提言など)
九州	大分県	人材育成について、若い人のやる気がという前に、社内の教える立場の方たちの意識を変えて、教える知識を身に付ける方法を考えたい。	会長としてしっかりした青年部事業を行い、青年部のメリットを伝え、会員の増員に取り組んでいく。	親会の方へは今年から行くようになってきたのですが、それまでの全構協の活動があまり情報として入ってきていなかった。全構協と青年部が連携することにより情報共有を図れるのではないだろうか。
九州	宮崎県	今後、自身が行いたいソーシャルメディアを活用してやりたいこと。FAB（鉄工所）の仕事内容に対する認知度が低いと感じる。今ではSNS利用率が80%以上という世の中でYoutubeやInstagram等を活用しFABの仕事内容（製作工程や建方工程）を若い世代にもっと知ってもらいたい。知ってもらったことで仕事と違う等で離職率が低くなると思うし、逆にFABの仕事をやりたいと言う若物が増えてくれると思う。	今回の意見交換会に参加して感じたのはやはり人手不足や人材教育に対するの悩みが多いと感じました。今後は色々な講習会や研修等に社員を参加させたいと思います。人材不足に関しては工場内の機械化を考え少数精鋭でやっていけるように考えていきたいです。	各県の色々な意見を聞くことが出来るとも有意義な時間でした。懇親会においても普段接点のない方と話が出来て良かったです。
九州	鹿児島県	技術伝承の部分を青年部の事業で取り組んでいきたい。	これまでと変わらず、アンテナを高くして様々なことに取り組んでいこうを考えております。	出来れば、ウエルディングショーなどに参加できるように金額面での助成をいただければ幸いです。
九州	沖縄県	欠席		

2023. 1. 20

一般社団法人全国鐵構工業協会

全構協委員会・WGの内容等に関する守秘義務の扱いについて（案）

全構協の各委員会・WG（運営・技術の各常設委員会、特別委員会、WG、以下まとめて「委員会・WG」とする）は、各委員がその職務に関して知りえた議事の内容等について守秘義務の対象としているが、その扱いに関する各委員の認識に相違が見られるケースがある。

については、委員会・WGの内容等に関する守秘義務については、次の通り扱うことを改めて確認する。

記

- ・全構協理事会で報告され承認された事項、既に報告されている議事全般については、支部等で報告可能な事項とする。
- ・上記以外の事項は全て守秘義務の対象とし、報告も行わないこととする。

※守秘義務の扱いについて、委員長・リーダー、あるいは事務局が適宜確認を行うこととする。

以上

その他の定例報告事項

【理22-8-他1】

構成員登録・取消社数累計表

登録・取消承認日	全構協受付締切日	登録社数	取消社数	合計社数
令和4年3月31日現在 (令和3年度増減数)		27	30	2,194
令和4年4月25日 第1回理事会	3月31日	(0)	(12)	2,194
令和4年5月24日 第2回理事会	5月17日	3	1	2,196
令和4年6月15日 第3回理事会	6月6日	0	2	2,194
令和4年6月15日 第4回理事会	—	—	—	—
令和4年7月12日 第5回理事会	7月6日	3	1	2,196
令和4年9月29日 第6回理事会	9月22日	9	12	2,193
令和4年11月15日 第7回理事会	11月8日	2	3	2,192
令和5年1月20日 第8回理事会	1月12日	4	8	2,188
累 計		21	27	2,188

《グレード別内訳》

S : 6 H : 286 M : 819 R : 596 J : 41 未 : 440 合計 : 2,188

登録構成員増減及び取消理由別社数一覧表

令和5年1月12日現在

区分	登録・取消 承認	増 減								増減差	増 減 後 構 成 員 数
		登録 社数	取消社数								
			倒産	転・廃業	縮小	工場閉鎖	休業	その他	合計		
平成16年度合計	65	13	22	18	2	1	45	101	-36	2,813	
平成17年度合計	35	15	16	14	2	3	28	78	-43	2,770	
平成18年度合計	49	8	15	19	6	3	29	80	-31	2,739	
平成19年度合計	51	13	19	20	6	1	20	79	-28	2,711	
平成20年度合計	49	17	17	29	0	4	41	108	-59	2,652	
平成21年度合計	37	11	47	34	3	6	50	151	-114	2,538	
平成22年度合計	23	31	39	33	4	7	52	166	-143	2,395	
平成23年度合計	14	13	45	20	3	3	65	149	-135	2,260	
平成24年度合計	20	9	15	19	2	0	35	80	-60	2,200	
平成25年度合計	13	5	5	13	2	2	15	42	-29	2,171	
平成26年度合計	26	2	6	10	0	0	21	39	-13	2,158	
平成27年度合計	36	0	5	9	0	0	11	25	11	2,169	
平成28年度合計	36	1	6	9	1	0	16	33	3	2,172	
平成29年度合計	56	0	9	7	0	0	11	27	29	2,201	
平成30年度合計	34	2	5	6	0	1	13	27	7	2,208	
令和元年度合計	25	0	10	9	1	0	14	34	-9	2,199	
令和2年度合計	32	0	12	6	1	0	15	34	-2	2,197	
令和3年度合計	27	1	10	7	1	0	11	30	-3	2,194	
令和4年度	第2回 (5月17日)	3	0	0	0	0	0	1	1	2	2,196
	第3回 (6月6日)	0	1	0	0	0	0	1	2	-2	2,194
	第4回 (一)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	第5回 (7月6日)	3	0	0	1	0	0	0	1	2	2,196
	第6回 (9月22日)	9	0	3	1	0	0	8	12	-3	2,193
	第7回 (11月8日)	2	0	1	0	1	0	1	3	-1	2,192
	第8回 (1月12日)	4	0	3	3	0	0	2	8	-4	2,188
	第9回 (月日) 年度末処理										
	4年度計	21	1	7	5	1	0	13	27	-6	2,188
累 計	1,084	501	690	542	128	79	1,177	3,117	-2,033	2,188	

1. 転・廃業内訳

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
転業 1社	転業 1社	転業 0社	転業 2社	転業 2社
廃業 4社	廃業 9社	廃業 12社	廃業 8社	廃業 5社

2. グレード別取消内訳

	S	H	M	R	J	未	合計
平成30年度	0	1	2	11	0	13	27
令和元年度	0	1	3	13	0	17	34
令和2年度	0	0	14	7	0	13	34
令和3年度	0	2	5	6	0	17	30
令和4年度	0	0	2	4	1	20	27

構成員登録社数・増減一覽表

(R4. 11. 9 ~ R5. 1. 12)

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回		
北海道	北海道	75			0	75		
	東北	青森	36			0	36	
		岩手	32			0	32	
		宮城	42			0	42	
		秋田	23			0	23	
		山形	28			0	28	
		福島	61			0	61	
		関東	茨城	60			0	60
			栃木	50			0	50
			群馬	64	1		1	65
埼玉	53				0	53		
千葉	59			2	-2	57		
東京	47				0	47		
神奈川	44				0	44		
北陸	新潟	86			0	86		
	山梨	31			0	31		
	長野	67		1	-1	66		
	富山	38			0	38		
	石川	33			0	33		
	福井	43			0	43		
	岐阜	74		1	-1	73		
中部	静岡	94			0	94		
	愛知	129			0	129		
	三重	62		1	-1	61		
	合計	2,192	4	8	-4	2,188		

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回
近畿	滋賀	31			0	31
	京都	47			0	47
	大阪	109		1	-1	108
	兵庫	74	1		1	75
	奈良	37			0	37
	和歌山	37			0	37
	中国	鳥取	14	1		1
島根		23			0	23
岡山		33			0	33
広島		79		1	-1	78
山口		37	1		1	38
四国	徳島	25			0	25
	香川	44			0	44
	愛媛	41			0	41
	高知	22			0	22
	九州	福岡	52			0
佐賀		25			0	25
長崎		18			0	18
熊本		24			0	24
大分		19			0	19
宮崎		25			0	25
鹿児島		29			0	29
沖縄	16		1	-1	15	
合計	2,192	4	8	-4	2,188	

年度	月	全建築物		鉄骨造		鉄骨鉄筋造		鉄骨推定重量計	
		面積	前年同期比	面積	前年同期比	面積	前年同期比	トン数	前年同期比
平成15年度計		176,531	103.2	64,378	104.7	9,402	85.8	6,907,900	103.2
平成16年度計		182,774	103.5	69,927	108.6	6,834	72.7	7,334,400	106.2
平成17年度計		185,648	101.6	69,338	99.2	5,468	80.0	7,207,200	98.3
平成18年度計		187,611	101.1	70,187	101.2	6,317	115.5	7,334,550	101.8
平成19年度計		157,219	83.8	61,466	87.6	5,443	86.2	6,418,750	87.5
平成20年度計		151,394	96.3	56,639	92.1	4,604	84.6	5,894,100	91.8
平成21年度計		113,196	74.8	37,589	66.4	2,937	63.8	3,905,750	66.3
平成22年度計		122,281	108.0	40,478	107.7	2,731	93.0	4,184,350	107.1
平成23年度計		127,294	104.1	41,792	103.2	2,610	95.6	4,309,700	103.0
平成24年度計		135,452	106.4	46,257	110.7	2,677	102.6	4,759,550	110.4
平成25年度計		148,461	109.6	52,350	113.2	3,466	129.5	5,408,300	113.6
平成26年度計		130,791	88.1	48,554	92.7	3,019	87.1	5,006,350	92.6
平成27年度計		129,605	99.1	48,304	99.5	2,909	96.4	4,975,850	99.4
平成28年度計		134,236	103.6	49,957	103.4	2,171	74.6	5,104,250	102.6
平成29年度計		133,028	99.1	50,701	101.5	2,788	128.4	5,209,500	102.1
平成30年度計		131,078	98.5	50,048	98.7	1,464	52.5	5,078,000	97.5
2019(令和元)年度計		124,936	95.3	44,928	89.8	1,480	101.1	4,566,800	89.9
2020(令和2)年度計		114,114	91.3	40,218	89.5	1,878	126.9	4,115,700	90.1
20(令和3)年度	4月	10,536	105.4	3,876	109.9	120	60.3	393,600	108.5
	5月	10,422	110.4	3,876	110.1	108	39.1	393,000	107.4
	6月	10,850	109.3	4,124	113.0	175	205.9	421,150	114.1
	7月	10,664	109.9	3,701	104.5	109	259.5	375,550	105.4
	8月	9,537	101.3	3,225	110.7	74	137.0	326,200	110.9
	9月	9,948	98.8	3,427	101.8	179	71.3	351,650	100.7
	10月	12,094	125.8	5,309	161.7	220	205.6	541,900	162.4
	11月	10,125	108.0	3,464	115.5	141	49.3	353,450	112.5
	12月	10,655	116.1	4,274	126.4	364	161.1	445,600	127.6
	1月	8,622	102.9	3,477	109.2	145	151.0	354,950	109.9
	2月	9,221	107.3	3,314	107.5	230	116.2	342,900	107.8
	3月	9,792	93.8	3,513	93.3	101	174.1	356,350	93.9
	年度計		122,466	107.3	45,580	113.3	1,966	104.7	4,656,300
20(令和4)年度	4月	11,250	106.8	4,031	104.0	294	245.0	417,800	106.1
	5月	9,704	93.1	3,414	88.1	301	278.7	356,450	90.7
	6月	11,045	101.8	4,247	103.0	130	74.3	431,200	102.4
	7月	11,248	105.5	4,349	117.5	246	225.7	447,200	119.1
	8月	10,418	109.2	3,501	108.6	127	171.6	356,450	109.3
	9月	9,682	97.3	3,216	93.8	74	41.3	325,300	92.5
	10月	9,902	81.9	3,452	65.0	214	97.3	355,900	65.7
	11月	9,568	94.5	3,456	99.8	160	113.5	353,600	100.0
	12月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	1月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	2月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	3月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	年度計		82,817	98.4	29,666	95.7	1,546	137.3	3,043,900

(単位) 面積 1,000㎡
前年同期比 %(注) 鉄骨推定所要量
鉄骨造 ㎡×100kg
鉄骨鉄筋造 ㎡×50kg

2022(令和4)年度 主要会議日程表

開催年月日	2022年(令和4年)							2023年(令和5年)						
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
4月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
5月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
6月	29	30	31											
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
8月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
9月	29	30	31											
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
11月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
12月	29	30	31											

2022.11.15 現在

□ ↓ 夏期・年末年始休日
 ◻ ↓ 土日・祝日
 ◻ ↓ 振替休日
 ◻ ↓ 休日出勤

開催年月日	三役会		理事会		総会		全国事務局長会 東京府支部		委員会		その他		備考	
	日	時	日	時	日	時	日	時	日	時	日	時	日	時
2022年(令和4年)	4月	12:00	4月	15:00			4月	17:30						
	5月	10:30	5月	14:00	5月	15:00								
	6月	9:00	6月	11:30	6月	15:00								
	7月	11:30	7月	15:00										
	8月	14:00	8月	11:30										
	9月	14:00	9月	11:30										
	10月	14:00	10月	14:00										
	11月	10:30	11月	14:00										
	12月	14:00	12月	14:00										
2023年(令和5年)	1月	10:30	1月	12:30										
	2月	10:30	2月	14:00										
	3月	14:30	3月	14:00										

2023(令和5)年度予定	
2023年4月7日(金)	三役会(12:00) 全国事務局長会議(15:00) 懇親会(16:30)
2023年5月16日(火)	三役会(14:30) 参考:全鉄評取締役会(12:00)
2023年5月23日(火)	三役会(10:30) 理事会(14:00)
2023年6月16日(金)	三役会(9:30) 理事会(11:30) 総会(15:00) 懇親会(17:00) 参考:全鉄評株主総会(14:00)

その他	

関連団体	
【青年部会】	
総会・全国大会:	

* = 変更箇所

【理22-8-他4】

＜ 北海道支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 11月分

提出日 令和4年12月12日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
支部	道内各支部活動・行事等	北海道支部(鉄骨部会)活動・行事等
道央	・ 8日(火) 三役会、役員会 ・ 15日(火) 例会	・ 1日(火) 任意評定(工場移設に伴う実態調査) 1社 ・ 15日(火) 道央支部例会参加(共済事業の説明)
函館	・ 9日(水) 例会、BCP説明会	
室苦小樽	・ 22日(火) 三役会	
旭川	・ 14日(月) 営業会議(4社)	
北見		
帯広	・ 21日(月) 例会	
釧路		

支部	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
道央	3 ~ 9	1 ~ 5	1 ~ 5	90 ~ 100			○			
函館	3.5	3	2 ~ 3	70 ~ 100			○			
室苦小樽	5 ~ 9	0 ~ 3	0 ~ 3	90 ~ 100		○				
旭川	8	2 ~ 3		90 ~ 100			○			
北見		1 ~ 2		80 ~ 90		○				
帯広	2 ~ 7	1 ~ 2	0 ~ 3	100			○			
釧路	5	2 ~ 6		50 ~ 120			○			

支部	現状と今後の状況の見通しについて
道央	・山積みについては、S・Hグレードはほとんどが「3~9ヶ月」で横ばい、M・R・J・未認定はほとんどが「1~5ヶ月」でほぼ横ばい。工場稼働率はS・H、Mはほとんどが「90~100%」、R・J・未認定はほとんどが「75~110%」でいずれもほぼ横ばい。見積りは「少ない」が56%で「同じ」が41%と「少ない」が増加。現状、資材価格の高騰や中小物件が少ないことに各社とも苦労している中で、一部に来年度物件の見積り増加のコメントが出てきている。 共同積算:1-11月 91,090t 平年比72% 前年比82%
函館	・各会員共に、先月と変わらず稼働率は高めで推移している。年明け2月くらいまでの手持ちは確保した模様だが、管内物件の見積りは少ない。価格については大きく変わりなし。
室苦小樽	・鋼材の値上げの状況は落ち着いてきている。凶面遅延のため、製作の遅れが生じている案件が多くなっている。
旭川	・ピークは過ぎ、工場は落ち着いてきた。Mグレードの手持ちは、他工場の手伝いで稼働する工場を含め、1月~2月頃までの見通し。
北見	・わずかながら、来年の計画・概算見積りの話が聞こえてきている。
帯広	・年末に近づき、本来は各社ともフル稼働で推移する時期であるが、既に手空きの工場が出始めている。今後についても先が見えない状況。
釧路	・先月同様、各工場の稼働率は概ね高いが、この状況は12月くらいで終わり年明けからは一気に下がる見込み。

＜ 北海道支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 12月分

(A)

提出日 令和5年1月11日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
支部	道内各支部活動・行事等	北海道支部(鉄骨部会)活動・行事等
道央	・ 6日(火) 三役会、役員会	・ 9日(金) 第6回 鉄骨部会役員会、忘年会
函館	・26日(月) 支部例会、経営者懇談会	
室苦小樽	・13日(火) 室蘭ブロック会議	
旭川	・12日(月) 営業会議(4社)	
北見	・22日(木) 委員会(例会)	
帯広	・19日(月) 支部例会	
釧路	・ 5日(月) 忘年会	

(B)

支部	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
道央	2 ~ 9	1 ~ 5	1 ~ 5	90 ~ 100			○			
函館	3	3	2 ~ 3	50 ~ 100			○			
室苦小樽	5 ~ 9	1 ~ 3	1 ~ 3	100 ~ 110		○				
旭川	7	1 ~ 3	/	80 ~ 100			○			
北見	/	1 ~ 2	/	50 ~ 80		○				
帯広	3 ~ 7	1 ~ 4	0 ~ 1	90			○			
釧路	8	1 ~ 7	/	40 ~ 120			○			

(C)

支部	現状と今後の状況の見通しについて
道央	・山積みについては、S・Hグレードはほとんどが「2～9ヶ月」、M・R・J・未認定はほとんどが「1～5ヶ月」。工場稼働率はS・H、M、Rはほとんどが「90～100%」、J・未認定は「75～90%」。見積りは「少ない」が55%で「同じ」が42%と前回とほぼ変わらず。相変わらず図面遅れ・工期ズレに振り回されているFABが多いほか、予定していた物件が中止・延期になったとのコメントもある。また、中小・新規物件の見積りが少ないとの指摘が多いものの、一部に来年度の大型物件などへの期待が増えている。なお、今年は積算重量が10万トン割れとなったが、これはリーマンショック翌年の2009年(90,937トン)に次いで少ない重量となった。 共同積算:1-12月 98,205t 平年比72% 前年比81%
函館	・各会員共に、年内の稼働率は高めで推移している。冬場の手持ちは確保した模様だが、春以降の計画・見積りは少ない。価格については大きく変わりなし。
室苦小樽	・納期の厳しい大型物件が複数あるが、中小規模の物件が相当少ない状況の地域もある。鋼材単価は落ち着いている状況。見積り案件は来年6月、7月頃以降の依頼が増えてきている。
旭川	・Mグレードの見通しは、1～2ヶ月で、来春まで受注が決まった会社が1社。Hグレードは、来年7月頃までは決まり、秋冬の見通しも出てきた。
北見	・わずかながら、来年の計画・概算見積りの話が聞こえてきている。
帯広	・全体的に、工場稼働は低調気味。新規引き合いも少ない状況で、価格安の話も聞こえてこない。
釧路	・各工場の稼働率は概ね高かったが、年明けからは工場稼働率・物件数ともに一気に下がる見込み。

＜東北支部＞ 状 況 報 告 書

2022 年（令和 4 年）11 月分

(A)

提出日 令和 4 年 12 月 1 日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	東北支部活動・行事等
青森県	○11/22 役員会議、積算業務担当者会議、「業務災害に関する講習会」（青年部会主催）	○11/18 東北鉄構工業連合会積算業務委員会 (仙台) ○11/24～25 2022 秋期 NDI-UT レベル 1 実技講習 (多賀城)
岩手県	○11/9 県南支部会 ○11/22 盛岡支部会	
宮城県	○11/3 みやぎ建設ふれあい祭り（ブース出展） ○11/24 仙南支部懇談会、理事会、組合顧問との懇談会	
秋田県	○11/1 10 月期営業担当者会議 ○11/15 技術品質サポート一社 ○11/22 役員会・代表者会議・BCP 講習会 ○11/29～12/1 研修会	
山形県	○11/12 超音波探傷技術研究会 探傷器の定期点検 ○11/15 三役会、役員及び新庄・村山支部会員合同会議	
福島県	○11/11 青年部工場見学会	
	○11/17 第 4 回理事会	

(B)

都道府県	①手持ち工事量（ヵ月）			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費（千円）		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S 造 (H+H)	S 造 (コラム H)	SRC 造
青森県	5～10	2～8	2～4	85 ～ 120			○			
岩手県	6～10	2～7	0.5～2	70 ～ 120			○			
宮城県	5～11	2～5	1～3	80 ～ 110			○			
秋田県	6～8	1～8	0.5～6	70 ～ 110			○			
山形県	3～9	2～10	1～4	90 ～ 120			○			
福島県	6～12	1～12	0～12	60 ～ 120		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
青森県	地元中小案件は引続き少ないが、100%以上の稼働率の工場は 8 割と、全体的に高水準で手持ち工事を維持している。しかし、鋼材は今後も高値安定のまま推移するとみられ、電気・ガス等冬場の深刻な経費支出と、増加する工期や設計変更の影響で、仕事の調整に苦慮し嘆く声が多かった。
岩手県	工場稼働率は若干前月から低下したが、引き続き手持ち工事量とともに高水準を維持している。工場加工費が若干上昇し、見積物件数もやや改善しつつある。しかしながら、中小規模物件の建築計画の減少が感じられ、春先の仕事量の不安感は依然根強い。
宮城県	手持ち工事量・稼働率は高めだが、切板や一次加工材等に納期の遅れがあり、工程への影響も見られる。見積物件数は増えつつあるが全体的にはまだ低調気味。小規模の改修・増築工事は散見されるがまとまった物件の動きは少なく、年明け以降も不安視される。
秋田県	手持ち工事量、稼働率に大きな変化はないが、単価は相変わらず低いのに対し、消耗品等が値上がりし転嫁できていない状況。
山形県	高稼働率を維持しているようだが、工事量・価格は横ばいの状況。鋼材や電力・消耗品高騰の動向に注視しつつ、情報の共有が必要である。
福島県	各グレード共それなりに受注残と稼働率は高いようですが、予定工事の工程遅延等の要因で稼働率や売上・利益が下がるケースもあるようです。地元中小物件は、予算が合わず中断・延期する場合もある様子です。

＜東北支部＞ 状 況 報 告 書

2022 年（令和 4 年）12 月分

(A)

提出日 令和 5 年 1 月 5 日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	東北支部活動・行事等
青森県	○12/9 R4 後期性能評価（1社：前倒し審査） ○12/14 積算業務担当者会議	○12/6 東北鉄構工業連合会積算業務委員会 (WEB) ○12/13 12月期定例役員会（盛岡） ○12/19 共済推進会議・事務局会議（盛岡）
岩手県	○12/5 組合広報委員会 ○12/7 後期性能評価傾向対策説明会 ○12/12 盛岡支部会・忘年会 ○12/14 県南支部会・忘年会 ○12/16 組合理事会・賛助会員との懇談会	
宮城県	○12/15 営業担当者会議・忘年会	
秋田県	○12/8 工場審査 1 件 ○12/16 営業担当者会議	
山形県	○12/9 青年部 スキルアップ研修会	
福島県	○12/3 青年部忘年会 ○12/9 郡山支部会<中止> ○12/14 第 3 回営業責任者会議・忘年会<中止> ○12/16,23 技術・品質サポート（各 1 社）	

(B)

①手持ち工事量（ヵ月）				②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費（千円）		
都道府県	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S 造 (H+H)	S 造 (コラム H)	SRC 造
青森県	5～21	2～7	1～4	80 ～ 120			○			
岩手県	5～10	2～7	0.5～2	70 ～ 110			○			
宮城県	6～13	2～6	1～3	60 ～ 110			○			
秋田県	5～9	1～7	0.5～5	85 ～ 110			○			
山形県	3～8	1～10	1～4	80 ～ 110		○				
福島県	6～13	1～12	1～10	30 ～ 120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
青森県	稼働率・手持ち工事量は、前月同様高水準で推移するも、地元見積物件は減少傾向が続いている。図面の遅れや工期のズレに作業不足の問題が深刻さを増し、県内 FAB も、年明けから外国人技能実習生を採用するなど、人員対応する工場が増えてきている。
岩手県	工場加工費、稼働率、手持ち工事量いずれも横ばい。見積物件数は数か月前に比べて改善しつつあるものの、依然低調であることに変わりはない。各社の景況感も『現状維持』の回答が殆どであり、改善の兆しは見えない。新年「卯の飛躍（跳躍?）」を期待したい。
宮城県	見積物件数は少ないながらも微増傾向にある模様。来春以降の見積も散見されるが、県内の物件でも他県 FAB で見積しているケースが多くみられる。春先以降の需要拡大へ期待する。
秋田県	前月同様物件数少ない。稼働率、価格に大きな変動は無いが、物件数は地域によって差が出てきている。
山形県	県内見積件数は減少傾向が続いている。業界を取り巻く環境が厳しく、先の見通しが見つからない状況である。
福島県	これから厳寒期を迎え、現場工程等の遅延に伴う稼働率の低下が増えている状況です。社員の離職や運搬・鍛造工等の協力業者も減少傾向にあるようで、これまで以上に様々な対応が必要との話も多く、受注は確保できても加工能力の低下が懸念されています。来年も引き続き、組合員同士のこまめな情報交換が必要と思われる。

＜ 関東支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 11月分

提出日 令和4年12月5日

(A)	①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
東京都	11,12日 出張理事会 15日 西地区会 22日 理事会、東地区会		関東支部活動・行事等
千葉県	1日(火)西部支部会 4日(金)第66回蹴球会 10日(水)非破壊検査40周年記念式典 25日(金)合同支部会		11/15関東支部女子職員研修会
神奈川県	4日 事業運営委員会、10日 教育技術委員会・役員会、11日 性能評価事前研修会・RJNグレード部会研修会、15日 関東支部女子職員研修会(神奈川県担当)、19日 BCP(事業継続計画)講習会、29日 フィットテスト説明会(県溶接協会主催)、30日 事業運営委員会		
茨城県	12日第7回鐵構茨城オープン39名、15日水戸市長と語る会 サポート1社		
埼玉県	1日(火) 総務委員会 9日(水) 組合理事会 14日(月) 県庁オープンデー出展 18日(金) STK会(組合親睦ゴルフ大会)	20日(日)~21日(月) 県南支部会熱海旅行 21日(月) 共済推進 24日(木) PAWG(フェイスブアレイ実証実験)打合せ、県西支部会	
栃木県	11/10 定例理事会、11/17 性能評価サポート		
群馬県	11/3 ゴルフコンペ、11/17 50周年記念事業開催準備会議、11/19 青年部3県合同研修会		
長野県	11/5・6・26 UT実技講習会、11/8 松本 金山祭 11/11 全構協青年部全国連絡会議、11/15 関東支部女子研修会 11/16 全構協と青年部組織代表との意見交換会、11/17 第二回運営委員会 11/17 長野県中小企業団体総会、11/19 青年部3県合同研修会 11/21 第三回理事会、11/28 県議会事務局との打ち合わせ 11/29 Mグレード部会 幹事会		
山梨県	11日理事会 12日溶接JIS検定 17日ガス溶接技能講習(一般)~18日 22日中小企業団体事務連絡会視察研修(川越商工会)	22日青年部会 24日中小企業団体中央会情報連絡員会議 25日経営近代化委員会 29日溶接安全委員会	
新潟県	11/3.4 技術委員会 UT講習会 11/18~21 技術委員会 製品検査(実技)講習会 11/18,19 兵庫県鉄工組合交流会 11/22 第5回 正副理事会 11/25 第5回理事会 11/2~28 工場審査事前サポート(5社)		

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
東京都	4~16	4~8	1~4	60~100		○				
千葉県	12	3~7	-	90~100	○					
神奈川県	6~11	2~6	1~2	70~120		○				
茨城県	6~12	6~10	3~4	100		○				
埼玉県	3~15	2~10	1~4	60~100		○				
栃木県	6~12	3~12	2~5	80~120		○				
群馬県	7~12	2~5	1.5~3	80~100		○				
長野県	6~10	1~9	1.5~7	50~120			○			
山梨県	3~12	1~14	2~3	80~120			○			
新潟県	6~13	3~7	2~3	95~100		○				

(C)	現状と今後の状況の見通しについて
都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
東京都	鋼材等の高止まりした価格や長期化した納期には殆ど変化がない。材料費、販管費などの値上げに対する転嫁が進まない状況であり、更に、工事価格が決まらないケースが多分にある。また、図面の決まりが遅く、建方までの期間がタイトな案件も多い。
千葉県	ターンバックルが入りにくい。加工費が上がらない。材料の高騰に未だに歯止めが掛からないので、先行きの仕事があっても工事価格が定まらまい状況。
神奈川県	消耗品、電気料金等の値上げ相次ぎ、工場のレートを見直す会員企業が増えている。安全を見た価格で応れずも失注するケースが多く、価格差が広がっている。 化粧で木造を使う方法から構造体としてのハイブリッド工法が増えており、通常では数百トンの物件が百トン未満になるケースが見受けられるようになってきた。
茨城県	・現在の稼働率は100%ですが、年明け以降は降気味である。大型の案件を数社で分担して製作するような物件が多い。地場は4月以降の物件の引き合いが来ているが、先行きは不透明である。今後材料高による影響がどう出てくるかが心配です。 ・現状、規模の小さい店舗鉄骨や病院渡り廊下、プラント配管ラックなどを納期に追われながら製作進行中。軽量形鋼材での天吊りやブドウ棚、胴縁の作図や製作単価で苦戦している。プラント工事では膜厚管理のうるさいシビアナ塗装仕様よりもめっき仕様の方が弊社としては扱いが容易で助かっていたのだが、大きなめっき槽を持つNSガルバさんが23年6月を目途に生産終了すること、近隣に大きな槽をもつめっき工場もなく、柱梁長さ、仕口長さなどいままでも通りとはいかなくなるので困ってくる。年末年始は細かく複数工事がバタバタと忙しく動くようになるが、年明け1月後半からは中規模の工事で進行できるので落ち着く予定。見積提出時の予定通りであれば6月建方開始工事が重なっているが、どの工事でも予定通りといかないと思うので、工程決めに悩む。従業員の家族にコロナ感染者が続き、濃厚接触者扱いで休ませている。作業部門にもよるが、その穴を埋めるのが大変。
埼玉県	建設物価調査によると、ここ数年資材価格が歴史的な高騰をしている。ただし、現在は総じて値上げが浸透した資材では踊り場を迎えているとのこと。確かに、一部客先からは材料の値上げを理解する動きがみられるが、100%認めることはほとんどない。一方、組合員は総じて忙しい状況が続いているので、薄利多売の状態であると思われる。
栃木県	・現場の行程遅延により出荷遅れが目立つ。・体調不良者が増えてきて、工場の稼働に影響が出ている。・求人に対する反応が良い。 ・仕事量は増えてきている。・大型物流倉庫の案件が多く、協力FABを求める連絡が県外問わず行き交っている。 ・GC、商社ともにFAB確保の為に、半年~一年先の案件を早めに提示してきている。
群馬県	少しずつ受注単価は上がってきたが、まだ厳しい状況は続いている。また、年明けからの受注が少なく、先行き不透明である。
長野県	・鋼材価格は高止まり傾向、副資材等ははまだ上昇している。運搬・重機が不足し単価も高くなっている。 ・見積り時と契約時に大きな単価のズレが生じ、更に消耗品や一般経費の値上り分を加工費に転嫁できない。 しかし以前よりは理解も進み価格転嫁できるようになってきた。 ・来年、春くらいまでの前半は仕事を確保している状況ですが、夏以降の後半は状況が読めない。 ・中小物件の見積りが相当減ってきている。 ・労務管理・加工・溶接・施工など人材不足は続き、異業種からの中途採用や若年者、また女性の活躍の場を拡げ積極的に環境・設備など変革させながら採用を進めていきたい。
山梨県	鋼材価格が高値で均衡状態となっているが、電気料金の上昇もあり副資材を含め注視する必要がある。 長野県さんからの事前情報を頂き会員に周知した「労働基準監督署による溶接ヒュームのマンガン濃度測定のチェックが山梨の会員工場にも入りました。
新潟県	鋼材価格・購入品及び運搬費の上昇分が加工費を圧迫し収益状況は厳しい状況が続いている。現在、首都圏物件をメインとする大規模工場やその協力工場の稼働率は高水準を保っているが、地元物件に頼っている小規模工場の稼働率は低く、2種化が目立つ。

< 関東支部 > 状況報告書

2022年(令和4年) 12月分

提出日 令和5年1月10日

(A)

都道府県	①全構協推進事業の現状	②支部活動状況	
東京都	17日 東構塾 22日 理事会、M部会	関東支部活動・行事等 12/13第4回関東支部会 12/15第4回関東運営委員会	
千葉県	9日(金)青年部塗料研修会 21日(水)Mグレ固形エンドタブ検定判定会議		
神奈川県	8日 役員会、16~17日 青年部会研修会・忘年会、21日 固形エンドタブ溶接技能者技量検定判定会		
茨城県	3~4日 超音波受検対策実技講習 11名、8日 第5回理事会 17日 東関東非破壊検査研究会忘年研修会、20日 茨城県建築関連団体交流会・県知事懇談サポート2社・技能実習生企業監査		
埼玉県	2日(金)~3日(土) 県東支部忘年会 7日(水) 総務委員会 10日(土) 技術委員会忘年会 11日(日)~12日(月) 県北支部会及び忘年会及びゴルフコンペ 13日(火) PAWG(フェイスドアレイ実証実験)		14日(水) 組合理事会、共済委員会 17日(土) 青年部会忘年会 20日(火) 県東支部会 23日(金) 県西支部会忘年会 12月中 サポート3社
栃木県	12/6 運営委員会、12/8 定例理事会、12/9 賛助会忘年会、 12/21 青年部情報交換会、12/21 経営近代化委員会(工場見学会)		
群馬県	サポート実施(5社)、12/9 外国人労働者採用説明会		
長野県	12/2(金) 青年部役員会 12/7(水)フィットテスト講習 12/15(木)16(金)中央会研修事業参加		12/18(日) 自民党政経懇談会 12/22(木) 創立50周年記念実行委員会 12/27(火) 創立50周年記念記念誌打合
山梨県	7日 東部地区溶接協会連絡会(新潟) 8日 山梨県中小企業団体中央会 役員会 9日 理事会 10日 溶接JIS検定		15日 認定職業訓練 令和3年事業監査 21日 山梨県労働災害防止団体連絡会 27日 教育技術委員会 アーク溶接特別教育 9高校
新潟県	12/9講習会(マスクフィットテスト) 12/2~8工場審査(5工場)		

(B)

都道府県	①持手工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
東京都	4~15	3~8	1~4	60~100		○				
千葉県	12.0	2.5~10	3~4	80~100		○				
神奈川県	5~12	2~6	1~2	70~120		○				
茨城県	6~12	6~10	3~4	100		○				
埼玉県	4~12	2~9	1~6	60~100		○				
栃木県	6~12	4~10	2~6	80~100		○				
群馬県	7~10	2~5	1~3	70~100		○				
長野県	6~12	3~10	1~7	80~130			○			
山梨県	6~12	1~13	2~3	70~120			○			
新潟県	6~13	3~7	2~3	95~100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
東京都	高止まりした鋼材等の価格や長期化した納期には殆ど変化がない。材料費、販管費などの価格上昇分の転嫁が進まない中、値上りが続く電気料金が加工費更に圧迫し採算割れが懸念されるファブも少なくない。また、工事価格が決まらない、図面の決まりが遅く建方までの期間がタイトな案件も依然見受けられる。なお、若干ではあるが見積物件依頼数が増えている。鋼材等値上りするにあたり未だ見積り作成に苦戦している。工場経費にも大きく影響が出ている。物件が多い。
千葉県	見積り案件がうすい。春先の物件確保が厳しくなりそう。鋼材等値上りするにあたり未だ見積り作成に苦戦している。工場経費にも大きく影響が出ている。物件が多い。
神奈川県	目を追う毎に特定外国人材を期待をする組合員の声が増えてきている様に感じます。技能実習生との違いがわからない組合員も多く、メリットやデメリットなどをまとめた冊子等があればもっと真剣に取り組む企業が増えると感じます。大型の見積もり依頼は増えておりますが、鋼材価格の高止まりやその他資材の高騰等による民間の小型案件の中止や延期が増えたとの声があります。
茨城県	・商社系の引き合いは多いが、地場は少ない。地場は4月以降にならないと出てこない。鋼材価格は据え置き。 ・中小物件の見積りが増えているように思われます。 ・年の瀬ならではのバタバタ忙しさはあるが、年明けは落ち着いてしまう。 協力、応援依頼の電話が鳴らなくなった。 予定の確保を打診されてるが、だいぶ未来の話なので現実味がない。 自グレードに適した手ごろな案件がない。 年が変わることによって潤いと活気に期待したい。
埼玉県	全体的に組合員は受注単価は回復していないが、稼働率80~100%で従来の水準である。また、Hグレードの組合員は1年先の見積り依頼も来ているが、地場物件中心のM・Rグレードの組合員は2極化が起きている。
栃木県	・一次加工(□・H・C)、シャーリングの納期が長くなっている。 ・求人募集で問い合わせが多くなった。 ・GCの設計施工では、何度も設計の変更があり、材料発注(ロール材)リミットぎりぎりまで図面作成の対応がありスケジュールが非常にタイトになっている。
群馬県	ゼネコンの物決めが遅く、加工の開始や製作工程が遅る傾向があり、工場加工が予定通り進められない。
長野県	・年明けから秋口までは工程はしっかり埋まっていますが、依然人手不足は続き、周辺FABと連携を強化していく必要があります。 ・営業利益率が鋼材の高騰により減少、来期も長期金利の利上げの副作用がどうなるか心配している。 ・年末のためか、トラック・クレーン・とび等の手配が難しいと感じる。 ・現場のチェック、各種業者の作図、確認等が滞ることが多いと感じる。 ・12月~7月未まで梁の工場加工。 ・製品は工場引き渡し。 ・溶接材料等以外の主材及び部品関係は相手先支給 ・値上げの波に飲み込まれそうです。 ・小規模物件の見積りはあるが、大型物件の見積りがない。 ・今年は6月以降の物件が受注できていない。受注競争激化の様相、安値受注競争が始まっている。
山梨県	コロナによりインバウンド需要の減少からwithコロナ生活の定着化が見られる様になり、3年延期していた県内で計画された民間物件の1つが必要の回復が見込まれると判断し、工場建設の着工が始まる動きもある。但し県内の特に公共物件は従前どおり少なく、Mグレードクラスでの手持量に格差があるものも従来どおりである。
新潟県	鋼材価格・購入品及び運搬費の上昇分が加工費を圧迫し収益状況は厳しい状況が続いている。現在、首都圏物件をメインとする大規模工場やその協力工場の稼働率は高水準を保っているが、地元物件に頼っている小規模工場の稼働率は低く、2極化が目立つ。

＜北陸支部＞ 状況報告書

2022年（令和4年） 11月分

(A)

提出日 令和 4年 12月19日

① 全構協推進事業の現状		② 支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	北陸支部活動・行事等
富山県	9日(水) 青年部会・11月度役員会 11日(金) 全青会北陸ブロック・第3回役員会 21日(月) 富山県中小企業団体中央会・富山県大会	1日(木) 全構協第2回運営委員会 (WEB) 15日(火) 全構協第7回理事会 (東京) 16日(水) 全構協と青年部会との意見交換会 (東京)
石川県	10日(木) BCP講習会 (WEB) 11日(金) 全青会第3回北陸ブロック役員会 (福井県) 12日(土) 入熱・パス間温度勉強会 (石川県建設会館) 18日(金) 第7回青年部役員会 19日(土) 青年部JSCA勉強会 30日(水) 理事・監事忘年会	
福井県	2日 UTレベル1実技講習会 (～11日) 8日 認定部会40周年記念事業 10日 定例三役会、理事会 11日 青年部会北陸BC役員会 15日 県鉄工業協同組合連合会 鉄工まつり 17日 企業説明会 (福井県産業技術専門学院タイアップ事業) 22日 企業説明会 (ポリテクセンタータイアップ事業) 25日 総務委員会 30日 技術委員会	

(B)

都道府県	① 手持工事量(ヶ月)			② 稼働率(%)	③ 見積物件の傾向			④ 工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
富山県	6～12	4～5	2～4	80～100		○				
石川県	6～12	3～7	1～2	80～110		○				
福井県	5～12	2～6	1～2	80～110		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
富山県	仕事量は全体的に、先月とあまり変わらない。工場加工費もここ数ヶ月は、変わっていない。地場物件については、仕事量がまだ十分でなく、ゼネコンとのギリギリの攻防が続いている。鋼材は多少弱含みとなってきているが、電気、運搬、溶材コスト等の急激な上昇分の転嫁が出来るかが、最も重要な問題である。
石川県	各グレードとも稼働率は良いと思われるがRグレードの大半は年内まで、Mグレードは来年夏ころまで、Hグレードは来年末までと多少企業間で差はあるが手持ち工事量は確保している様子。地場の物件は公共も含め少ない模様。材料費の高騰が受注価格に十分に転嫁できていない場合もあり厳しい。BCPの納期の長期化で物件の確保が困難との声もある。副資材や電気の高騰に伴う経費の圧迫も影響してくるので実際の加工費が適正価格となる様十分な注意と努力が必要と思われる。
福井県	・例年に比べて見積引合いが増えてこない。大型物件がファブ受注量の多くを占めているため見かけの引合い件数が伸びないものと考えられる。一方で中型物件が依然として少なくMグレード以下のファブでは相互協力体制を取って何とか凌いでいる。 ・民間工事では、材料等高騰の理解が進んでいるためか受注単価はやや上向き傾向が見られる。対する公共工事(県内)は、引合いはあるものの価格での折りがつかず受注決定までに至る物件は少ない。

＜北陸支部＞ 状況報告書

2022年（令和4年） 12月分

提出日 令和5年1月11日

(A)

① 全構協推進事業の現状		② 支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	北陸支部活動・行事等
富山県	1日(木) 建専協・富山県土木部との意見交換会 10日(土) 青年部会・後継者育成交流事業	8日(木) 全構協・第3回技術委員会(東京) 19日(月) 第3回北陸支部役員会(金沢)
石川県	7日(水) 石川県知事表敬訪問 10日(土) エンドタブ講習会(ポリテクセンター石川) 17日(土) 青年部忘年会	
福井県	1日 共同受注委員会 2日 臨時三役会 9日 認定部会役員会・例会忘年会 15日 企業説明会(ポリテクセンタータイアップ事業) 16日 定例三役会、定例役員会	

(B)

都道府県	① 手持工事量(ヶ月)			② 稼働率(%)	③ 見積物件の傾向			④ 工場加工費(千円)		
	S・H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
富山県	6～12	3～6	1～3	80～100			○			
石川県	6～12	3～6	1～2	80～110		○				
福井県	5～12	2～6	1～2	80～110		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
富山県	Hグレードは仕事量には問題はないが、諸物価高のコスト負担と、相変わらずの図面承認の遅延、工期のズレによる置場不足や人手不足が経営を圧迫している。M・Rグレードは地場の低価格物件は受注していない様だが、手伝い仕事だけでは忙しいだけで、利益は薄い。材料高のリスクの回避するために、鉄骨商社の案件を受注するファブも増えている。
石川県	各グレードともに前月と山積みについてはほぼ変わらずで、Hグレードは1年先まで、Mグレードは半年、Rグレードは1～2カ月。県内の中小物件については年明けからは減少する傾向だが、地元物件を中心とするM,Rグレードの中でも人手不足によって仕事が回らないなどの声もあり、企業間でばらつきがある。鋼材費の十分な回収が厳しい状態である中で、副資材の高騰や電力料の高騰もあることから、加工費の確保が課題だと思われる。今後の働き方改革による運搬費等の問題もあり、現状と今後の課題の共有が重要と思われる。
福井県	・山積み状況、稼働率とも前月とほぼ同様で大きな変化は見られない。 ・今秋に引き合いがあった物件が、粘り強い交渉により漸く受注決定するケースが増えてきた。しかし未だ価格交渉が難航している物件もある。 ・県都心再開発は材料高騰などを理由に完成予定の大幅な延期が決まり、地元建築業界への影響も大きい。 ・主要鋼材に続く副資材、運賃等の高騰が経営に大きな影響を及ぼし始めていて、運送業界の2024年問題も含めて各社の経営に不安の影を落としている。ファブ同士の情報共有が一層必要と考えられる。

＜ 中部支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 11月分

(A) 提出日 2022年(令和4年)12月 6日

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等		中部支部活動・行事等	
岐阜県	19日(土) 22日(火) 26日(土)	エンドタブ施行講習会 理事会 建築鉄骨外観検査技術講習会	5日(土) 8日(火) 15日(火) 16日(水)	青年部中部BC 合同研修会 全構協 三役会 出席 全構協 三役会・理事会 出席 全構協 青年部 意見交換会
静岡県	18日(金) 22日(火)	三役会、創立50周年委員会 運営・技術委員会、役員会		
愛知県	15日(火) 24日(木) 29日(火)	H部会 愛知県建築士事務所協会 理事会 出席 青年部会		
三重県	8日(火) 10日(木) 11日(金) 25日(金)	定性的マスクフィットテスト講習会 44社53人参加(フルサト工業3M) 超音波探傷レベル1実技試験対策講習会 第7回理事会(移動)・懇親会開催(賛助会員参加) 工場サポート3社継続中		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
岐阜県	3~12	2~8	1~8	60 ~ 120		○				
静岡県	8~12	2~7	1~5	70 ~ 120			○			
愛知県	9~23	3~7	2~3	80 ~ 120		○				
三重県	9~14	2~7	1~5	100 ~ 125		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ・建方や工程のズレで物件が重なり、山が高くなりつつある、仕事量も十分確保出来ている。 ・小忙しく重なってきた物件が片付き、今は落ち着いている。 ・夏以降、忙しい状況が続いており、年明けも4月頃まで忙しい状況です。 ・軽量材料は12月に再び値上げが見込まれ、材料高が色々な面で影響を与えらると思われる。
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに来て仕事量はそこそこあるが、材料・光熱費の値上げ等で利益率が大幅に圧迫されている。 ・だいぶ先の案件の引き合いがあるが、材料見積もりに苦慮することが多い。アンテナを高くて情報収集していきたい。 ・材料調達しやすくなり、加工期間が取りやすくなった。地場の単価は安い。 ・現状は忙しい感じがするが、来年春先の仕事が決まっているのは、上位グレードのみと思われる。 ・内製能力を超える受注物件については、外注先確保に苦慮している。 ・建築単価高騰のため、延期・取りやめ物件が多い。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね新規物件には鋼材の価格転嫁できる環境になった。 ・副資材(溶材、ガス、電気、その他)の値上がり分をアップしていく予定。 ・来期も3%程度は値上げを行う予定。 ・鋼材、副資材、運送、外注費他、全てのが値上げしている中で加工単価を上げてもらう努力を今以上に行いバランスを取っていきたい。 ・年末から来春にかけて大型物件と夜の改修工事と高層マンションの制振装置を受注しており多忙となっています。 ・来夏から再来年にかけては大型物件が目白押しとの情報はありますが、小規模物件は少ないのでは・・ ・相変わらず小規模物件の見積もりが少ないので、来年は厳しい状況が予想される。 ・年内の仕事は何とか確保できているが、年明けからの物件はまだ見えてこない。 ・11月に鋼材単価が値上がりと言われた。ただいくら上がるのかわからないと見通しがたない。
三重県	<ul style="list-style-type: none"> ・100t以下クラスが動き出しているが、300tから500tクラスが少ないようである。 ・材料の遅延が目立つ。副資材関係の品薄、納品遅延が発生している。 ・4~5月頃は、どこのファブも忙しそうだがそれ以降は色々な情報が聞こえてくる。実際には4、5月以降の話も来ていますが5、6月頃から仕事量が少ない感じの情報も聞いたり、まだ半年先の話ですが聞く情報には差があるようです。

＜ 中部支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 12月分

(A)

提出日 2023年(令和5年) 1月 10日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等	中部支部活動・行事等	
岐阜県		1 日 (木) 全構協 運営委員会 出席 13 日 (火) 全鉄評 評価委員会 出席 14 日 (水) 全構協 人材育成委員会 WG会議 出席 16 日 (金) 全構協 三役会 出席	
静岡県	1 日 (木) 県下一斉情報伝達訓練(防災関係) 14 日 (水) 全構協人材育成委員会・WG会議 23 日 (金) 三役会、創立50周年委員会		
愛知県	9 日 (金) 名古屋北支部会 20 日 (火) 青年部会 28 日 (水) 東三河支部会		
三重県	6 日 (火) 三重県県土整備部他、見学会・意見交換会 20 日 (火) 第8回理事会・創立50周年整備委員会 工場サポート3社継続中		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
岐阜県	5～15	5～7	1～9	80 ～ 150		○				
静岡県	6～10	2～8	1～6	80 ～ 120		○				
愛知県	10～12	2～7	2～6	80 ～ 110		○				
三重県	9～17	2～7	2～4	100 ～ 138		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ・図面承認がなかなか下りてこないため、工程がズレてしまい、結果重なってしまふことが多い。 ・人手が不足している。(募集をしてもなかなか来ない) ・年末年始は各社稼働率が高い。
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・ようやく材料等の値上げも落ち着き仕事量もそこそこあるので、みんなで努力して加工費の底上げをしていきたい。 ・インフラ価格の上昇や材料および消耗品、ガス代金等の価格上昇を見積りに反映させていかなくてはならない。仕事量はあるのに赤字ではられない。 ・県内物件が少なくなっていく中で、安受けをするファブがでなければ良いと思っている。皆で足並みを揃えて、利益が出る単価を維持していきたい。 ・材料費の高騰も落ち着いてきたものの副資材(ガス、塗料、溶接ヒューム等)の値上げが続いており、また来年4月より電力費の値上げが予定されるため、今後の収益確保が課題となっている。 ・内定工事まで含めるとほぼ来年末まで満杯状態。鋼材価格の転嫁に務めているが、この先の鋼材価格の動向が読めないため見積金額をどの辺に定めて良いか悩むところ。 ・建築価格高騰のため、延期・取りやめ物件が多い。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・来年の工事においても材料、副資材の値上げが加工賃に影響を及ぼしていると思うので受注は控えめにする予定。 ・最近の雇用状況は、入社希望者が増えてきている。 ・現場はあるものの工場加工が薄い状況。 ・鉄骨以外の物件は、来年も1年通して続きそう。 ・大規模物件(物流倉庫等)の動きが活発。 ・小規模物件の見積もりが少ない。 ・来年4月以降の見通しに少し不安を感じます。
三重県	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼材納期の問題ではなく、鋼材高騰に対する規模縮小やVE反映などの設計工程の影響により、単価交渉が非常に難しい。 ・ゼネコンの受注量が今後多く、仕事をセーブしている為か通常時より見積物件数が減っている状況です。上手く考えれば単価のベースアップもされていくのではないのでしょうか。 ・年明け以降、受注物件の谷間が顕著に表れそう。

＜ 全構協近畿支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年 11月分)

提出日 令和4年12月6日

(A)

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	近畿支部活動・行事等
滋賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・11/9理事会、認定工場部会 ・11/16青年部会長意見交換会出席 ・11/10フィットテストインストラクター養成講習会 ・11/17組合50周年記念事業打合せ 	≪第3回近畿支部会≫ 11月25日(金) 14:50 ~ 16:45 (一社)鐵鋼会館 ≪近畿地方整備局意見交換会≫ 11月25日(金) 13:00 ~ 14:30 (一社)鐵鋼会館
京都府		
大阪府	11/1,2UT学科講習会、11/10第3回運営共済事業委員会 11/16第3回技術委員会、11/18,19北・市内合同支部会	
兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ・11/18~19 移動理事会(新潟) ・11/18 新潟県鉄骨工業会意見交換会 	
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> ・11/24 青年部定例会 	
和歌山県	<ul style="list-style-type: none"> ・11/28 入熱・パス間温度管理講習会 ・12/5 近代化委員会・忘年会 	

(B)

都道府県	①受注物件件数(ヵ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
滋賀県	8 ~ 14	3 ~ 10	1 ~ 3	70 ~ 100			○			
京都府	7 ~ 12	1 ~ 6	1 ~ 5	10 ~ 120		○				
大阪府	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	60 ~ 100		○				
兵庫県	9 ~ 17	4 ~ 7	1 ~ 4	80 ~ 100		○				
奈良県	~	4 ~ 6	1 ~ 3	80 ~ 100		○				
和歌山県	6 ~ 15	3 ~ 5	1 ~ 3	60 ~ 100		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
滋賀県	各工場とも直近の山積みは安定している。今後工期の延期や取り止め物件などでスポットの空きが出る恐れはあるものの23年も物件情報は安定しており期待したい。また、今年は県内ゼネコンから安定受注出来ていた事業所から小規模物ですらある特定の特約店の安価受注により逸注するケースが多く見られたとの報告が多数寄せられた。背景には需給バランスが崩れている事が挙げられるが何らかの対策「商社・特約店との交流会」などを多く設けて価格の維持・上昇に努めて頂くよう期待したい。
京都府	来年3月以降の工事引合いが徐々に増えて来ている。現在進行中の物件で年内は多い。来年以降、夏頃までは見積案件から少なく山積みは低い。夏以降仕事は多そうだが京都は少ないように感じる。大阪案件の応援仕事が増えそう。鋼材価格が上がる事で見積物件も少なくなっているように思う。年明け以降、資材価格がどれだけ上がるかが不安である。冬場に向けて電力不足云々で値上げになるか心配。図面等の遅れから加工応援依頼が多く見受けられます。加工費は低い状態での指値が続いており受注単価の向上が課題です。
大阪府	決め事が中々決まらずに、図面が固まらない物件が多い。従って工程も流動的で、山積みがかくちやくちやになり工程管理がままならない。昔からある話だが、最近特に酷い状況。それに加えて、身の回りのもの全てが値上がりしている中、加工単価に物価上昇分を転嫁して行きたい。民間の新規物件(50から100t)が非常に少ない気がする。RC造の附属工事、プラント設備関係、役所物件しかない状況。
兵庫県	建築需要は物流関係やデータセンター、再開発プロジェクトなどの大型案件が堅調ですが、中小案件が少なく鋼材荷動きは思ったほどなく少し需要も落ち着いていますが、ただ先々案件はあるので当面は現状維持で推移するのではないかと思います。外部一次加工業者が混み合っているため納期には十分に気を付けたい。また、物価高騰による工場製作費用のしわ寄せも含め今後の客先との交渉が大事になってきます。
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> ・材料値は少し落ち着いて来たと感じます。また、年明けの仕事量は少ないように感じられます。 ・年内～年明けまでは忙しいですが、その先は見積もり物件も少ない状況です。 ・(別の鉄工所では...) 来年は案件が多く、受注単価は上がらないが、来年は上がるだろうと思います。
和歌山県	鋼材価格は、高止まりの状態ですが、円安や物価高騰で予断を許さない状況です。見積物件数は、少し増えてきましたが、まだ十分な状況ではないです。そんな中、価格交渉も副資材・溶材・電力等の物価上昇を考えて交渉していく必要があり、難しくなっています。円安や物価高騰が、いつまで続くのか心配です。

＜ 全構協近畿支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年12月分)

(A)

提出日 令和 5年1月10日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	近畿支部活動・行事等
滋賀県	・12/7 青年部会(忘年会及び建設みらいフェスタ慰労会) ・サポート3社(12/7, 9, 13) ・12/14 中央会特別講習会Web参加	
京都府	・12/1 工場審査サポート2社 ・12/15 50周年事業記念誌担当準備委員会	
大阪府	12/2 第3回東支部会、12/6 第5回南支部会、12/8 12月度北支部会、 12/14 第4回定例理事会、12/9.10.11.17.18.19 UT学科講習会	
兵庫県	・12/2 運営委員会 ・12/9 教育技術委員会 ・12/21 サポート1社	
奈良県	・12/1 三役会・理事会 ・12/8 共済・経営近代化委員会	
和歌山県	・12/5 近代化委員会 懇親会 ・12/19 工場審査勉強会(5社) ・12/29 工場審査勉強会(1社)	

(B)

都道府県	①受注物件件数(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
滋賀県	8 ~ 14	3 ~ 8	1 ~ 4	70 ~ 100		○				
京都府	1 ~ 12	6 ~ 12	1 ~ 3	60 ~ 100		○				
大阪府	6 ~ 12	2 ~ 6	1 ~ 3	60 ~ 100		○				
兵庫県	10 ~ 18	4 ~ 7	1 ~ 4	80 ~ 100		○				
奈良県	~	6 ~ 8	1 ~ 3	80 ~ 100		○				
和歌山県	6 ~ 13	3 ~ 5	1 ~ 3	60 ~ 100		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
滋賀県	メインの鋼材費は落ち着きを見せているが社内消耗品・ガス・電気などは今後軒並み高騰が予測される。今後は自社経費が前年比10~15%程度上乗せされると予測している。対象は限定され一般的意見では無いが大型物件にみられる鋼材(BH・メガハイパー)も使用頻度が上がっており表面単価+エキストラを想定する必要がある。せい1200を超える加工は自社では難しく、業者への横持ち費・切断孔明け費など(BH/WEB19mm開先費・短尺上乘せなど)加工費に食い込む事例が多いので鋼材費の概念・範囲の見直しが必要。特にBH業者へは各事業所の個別対応では無く、業界からの要望として鋼材価格+エキストラを含めた単価提示を一般化させる必要があると考える。現状ではGC各社は表面上の鋼材単価しか認識がない。
京都府	材料に関しては3月頃まですえ置きと思いますが、4月~の材料費は値上げが予想されるので駆け込みの仕事も出ると思います。大型物件は色々な要因で遅れているが来年は多いと思います。来年夏頃の仕事が確定していない。決め事が遅く工程が崩れている。双方の人員不足が原因かと思う。人で確保の為にファブの地位向上が必要かと思う。見積物件が少なく年明けに仕事はあるものの春先以降がどうなるか心配。手間賃のアップが中々見込めない。
大阪府	厚板・コラムなどの納期遅れによるものと、図面の決定遅れが原因となり、仕事に掛かれない月と重なって処理できない月ができ、予定していた工程を大きく狂わせている。山積み上の物件量は安定傾向であるが、仕事の空白と消化不良を解消するため、危機管理体制と仲間同士の連携を強化したい。民間の50t前後の物件は少ない。来年の鋼材値上げが実現すると、受注済物件の採算が取れない。副資材も全て値上げとなり、ベースアップは難しい。
兵庫県	各社、山積みが高くなっている関係で図面の取り決め等により工場製作が圧迫しており一部の物件で建方に支障が出ているとの事です。また来年再来年とHグレード中心に旺盛な仕事量がある為、今後の見積り及び鋼材市況には十分に注意していきたい。鋼材加工業者が込み合って付帯関係の二次部材加工納期にも遅れが生じているので余裕を持った発注が必要です。
奈良県	・小物件の見積もりが増えて来ている様に思います。そして仕事量も、やや多めの状況です。 ・工程のずれが多い場合もありますが、それなりに仕事量も有り、今年の春から秋頃に掛け、多忙になるのでは無いかと思えます。また、Mグレードに合う物量も、多く出したと感じられます。
和歌山県	見積物件は、少し増えてきたように思いますが、物価高騰の影響か修正見積・VE案見積などが、増えてきて決定するのに時間がかかっているように思われます。そして決定すれば、工期が短い物件が増えていきます。又、この物価高騰による上昇分を加工単価に転嫁すべく粘り強く交渉していく事が、必要と考えます。来年こそは、物件数も増え加工単価も上がることを期待したいと思います。

＜ 中国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 11月分

(A) 提出日 2022年(令和4年) 12月日

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等		中国支部活動・行事等	
鳥取県	3日(木) 9日(水) 28日(月)	第34回 秋の合同懇親ゴルフコンペ 東部支部例会 工場審査 1社	7日	全構協:50周年記念事業特別委員会 (zoom)
島根県			15日	全構協:第7回理事会(東京)
岡山県	16日(水)	全構協・青年部意見交換会(東京)	24日	鉄骨技術者教育センター: 社長の右腕育成講習会検討WG(東京)
広島県	5日(土) 8日(火) 14日(月) 26日(土)	建築学会中国支部「入熱・パス間温度を考える」勉強会 組合創立50周年記念事業 特別委員会 組合顧問弁護士へのマスコミ取材 建築学会中国支部 鋼構造シンポジウム(teams)	29日	第5回中国支部会、共済推進会議 (岡山市)
山口県	16日(水) 24日(木)	全構協と青年部の意見交換会 青年部役員会	30日	全構協:50周年記念事業特別委員会 (zoom)

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
鳥取県	3 ~ 12	2 ~ 7	1 ~ 2	80 ~ 120		○				
島根県	7 ~ 8	2 ~ 5	1 ~ 3	80 ~ 100			○			
岡山県	10 ~ 15	1 ~ 7	2 ~ 3	80 ~ 100			○			
広島県	7 ~ 8	2 ~ 8	1 ~ 6	80 ~ 120			○			
山口県	4 ~ 7	2 ~ 4	2 ~ 3	75 ~ 100		○				

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
鳥取県	<p>年末年始に向けて原材料費の高止まり・電力・ガス等・副資材や物流調達コスト上昇が続いている状況の中、各グレード各社の手持ち工事量・加工価格は前月と同じく平行線で適正価格交渉に持ち込む厳しい状況下。また施工図面決定の遅れなどがあり、客先の要望する工程・製品の作り込みも含めて奮闘中、稼働率の格差があるものの、Mグレード数社では来年に向けての計画工事の情報・見積り依頼も多くなって来年早々の着工予定物件数があるようで、春先以降の工事量の山は高めに推移することが予想されそう。</p>
島根県	<p>Hグレードは、来年前半の仕事量は確保出来ており、後半については、情勢を窺いながら進めて行く予定である。Mグレードは、見積もりが少ないことなどから、来年度以降については先行き不透明な状況の組合員もある。Rグレード以下の下位グレードについては、今しばらくの仕事量は確保出来ているが、先行き不透明であり来年度以降は仕事量が少なくなるのではとの意見が聞かれる。また、客先の鋼材価格上昇への理解は進んで来てはいるものの、塗料、溶剤など副資材や輸送費、ひいては、作業服などの価格上昇もあり厳しい状況が続いている。</p>
岡山県	<p>年末、そして年度末に向けて本来であれば繁忙な時期ではあるが、都心を顧客とするHグレード以外は閑散な状態である。これは建物への設備投資が官民共に都会へ集中し、地方への投資が控えられる状況となっている事が原因ではないかと考える。又、地方に於いてCLTの市場進出はめざましいものがあり、低層の鉄骨構造がSDGsという欺瞞のもと差し替えられる事態となっている。CLTの市場進出を許したのは我々の業界の怠慢であり、これから低層建築では鉄骨業界にとって脅威の存在となる事を享受せねばならないと思われる。</p>
広島県	<p>稼働率は、100%以上の回答企業が80%、90%未満の稼働の報告はなく、繁忙状態が続いている。手持ち工事では、Hグレードは概ね1年超、Mグレードはほぼ5か月以上の仕事を抱える一方、Rグレードを中心に4か月以下の割合が全体の50%を占めており、格差は依然として大きい。見積りについては、「普通」の回答が半数で、「少ない」の回答はR以下で多い。小規模物件の回復が遅れ気味の模様。各社とも、応援工事も含め当面の仕事は忙しく、工程の遅れ防止、仕事の山谷調整に懸命の努力が続いており、人手不足感も強い。また、将来見通しも、不安の声が消えて楽観的に変化してきており、今が、適正な鉄骨価格獲得による収益性改善のチャンスと思われる。</p>
山口県	<p>Hグレードでは、先月、図面決定の遅れにより加工が伸びなかった影響で、今月は納期に間に合わせるため稼働率は上がったが、残業が増えた分コスト面ではアップした。M・Rグレードでは、地元の案件が非常に小規模で、新築工事よりも改修工事が多い。商社案件や同業者とのシェアによる加工が増えており、同業者の手伝いで稼働率100%を確保しているとの声もある。現状忙しいと話すファブが大半だが、一部で仕事量が少し薄いと話すファブもある。来年3月以後の引き合いが多いなど今後も仕事は確保できそうだが、コロナでずれ込む影響や物価高の対応など様々な問題がある。鋼材納期はある程度落ち着いているが、一次加工の納期が長くなっている地域もある。価格面では、鋼材費よりもCO2、溶接ワイヤー、電気料金等の価格高騰率(%)が目立っており、ガスや電力はファブにとっても生命線ともいえる部分のため何とか工場加工費に価格転嫁できればと考えている。今後これらの価格面が良い方向で落ち着いてくれることを期待したい。</p>

＜ 中国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 12月分

(A) 提出日 2023年(令和5年) 1月12日

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等		中国支部活動・行事等	
鳥取県	6日(火) 9日(水) 23・27日	理事役員会・青年部会例会・合同懇親会 東部支部例会 年末安全パトロール	1日 8日	全構協:運営委員会(東京) (zoom) 全構協:技術委員会(東京) (zoom併用)
島根県	23日(金)	工場審査サポート(1社)	13日	鉄骨技術者教育センター: 社長の右腕育成講習会検討WG(東京)
岡山県	8日(木)	理事会・忘年会(岡山市)	14日 20日	全構協:人材育成委員(東京) 全構協:50周年記念事業特別委員会 (zoom)
広島県	2日(金) 6日(火)	組合青年部 幹事会(福山) 組合三役会・理事会		
山口県	2日(金) 3日(土) 19日(月)	第5回理事会・懇親会 ZRC工法講習会(青年部会) 工場審査サポート1社		

(B)

都道府県	①手持工事量(ヶ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
鳥取県	4 ~ 12	2 ~ 8	1 ~ 2	70 ~ 130		○				
島根県	6 ~ 7	2 ~ 4	1 ~ 3	80 ~ 100			○			
岡山県	10 ~ 17	1 ~ 7	2 ~ 3	80 ~ 100			○			
広島県	12 ~ 29	2 ~ 6	2 ~ 6	90 ~ 120			○			
山口県	4 ~ 8	2 ~ 6	2 ~ 3	80 ~ 100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
鳥取県	H・Mグレード各社は格差はあるものの、来年以降の仕事量は県外物件含めて、軒並み高い山積み・稼働率を維持していける状況が続いている様子だが、ゼネコン元請業者の受注単価が安請け合いのため、連動して適正価格に持ち込む交渉内容に苦慮、厳しい対応を押し付けられ限度額を超えた加工単価にならないように、FAB同士の協力体制を重点に踏ん張っている。
島根県	Hグレードは、2023年前半の仕事量は確保できており、後半については、引き合い物件が秋以降の工事として具体化するものと思われる。Mグレードでは、春以降について期待感を持っているものの、見積もりが少ないことなどから、来年度以降については先行き不透明な状況との声が聞かれる。Rグレード以下の下位グレードでも、今年度内の仕事量は確保出来ているが、来年度以降の仕事量については先行き不透明との意見が多い様である。また、客先の鋼材価格上昇への理解は深まっているものの、副資材や輸送費、消耗品などの価格上昇もあり厳しい状況が続いている。
岡山県	年の瀬を迎えて本来であれば繁忙な時期であるはずが都心部を顧客に持つHグレード以外は閑散な状況である。書き入れ時にこの状況は問題であり、同時に金利の上昇が来年から始まる事を考えれば年度末、あるいはそれ以降の資金繰りに不安を覚える会社が出てくるのではないかと考えられる。結果として非常識な価格競争が激化する事となり、折角維持していた価格が崩壊するのではないかとされる。令和5年は少し厳しいスタートとなる事を覚悟せねばならない。
広島県	稼働率は、100%以上の回答企業が80%を占め、90%未満の稼働報告はほとんどなく、繁忙状況が続いている。手持ち工事では、Hグレードは1年超を確保する一方、Rグレードや未認定を中心に、4か月以下が全体の約70%を占めており、格差は拡大気味。見積りについては、「普通」と「少ない」の回答がそれぞれ約50%で、「多い」の回答は極めて少なく、改善は足踏み状態。各社とも、当面の仕事に忙しく、製造原価が上昇する中で懸命に利益確保に努めているが、原価上昇の落ち着き先が見えないことから徐々に先行き不透明感が漂いはじめている。
山口県	Hグレードでは、物件が重なり稼働率は上がったが、先月同様に残業が増えた分コスト面ではアップした。見積物件数は若干減少。来年はかなり忙しくなりそうだが加工単価が追いついていない。M・Rグレードでは、地場物件は希薄な状況だが、自社物件に加えて同業他社からの依頼も増えており、シェア物件や商社物件等で旺盛な状況にある。地域格差はあるものの企業の設備投資も進むと思われる。地場物件も小規模だが突発的な対応を求められ材料調達、生産管理の観点から納期対応が厳しい。副資材や消耗品の価格高騰が続く中、2023年4月の電力価格値上げに対しても工場加工費に転嫁できるよう価格交渉に臨まなければならないと思う。また、人材不足についても懸念している。

＜ 四国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 11月分

(A)

提出日 令和4年12月13日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	四国支部活動・行事等
徳島県	19日(土)ゴルフコンペ 21日(月)第8回情報交換会 26日(土)AW検定練習 29日(火)西部・北部支部会	
香川県	4日(金)青年部と打合せ 9日(水)第5回理事会及び打合せ 25日(金)工場審査打合せ	
愛媛県	25日(金)理事会・組合協賛店合同研修会・懇親会 30日(水)県建築住宅課との意見交換会(鋼材市況について)	
高知県		

(B)

都道府県	①受注物件件数(ヵ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
徳島県	4 ~ 7	~ 4	1 ~ 3	80 ~ 100			○			
香川県	4 ~ 10	3 ~ 5	~	90 ~ 110			○			
愛媛県	4 ~ 12	2 ~ 5	2 ~ 4	90 ~ 120			○			
高知県	5 ~	2 ~ 6	1 ~ 2	80 ~ 120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
徳島県	県内物件の見積は相変わらず少ない状況が続いている。50~200t程度の仕事が少なく、仕事の手持ち量にバラつきがあるようです。 副資材等の材料価格の値上げはまだまだ続きそうなので、納期と受注価格に注意が必要。プレス管コラムがだいぶ納期が縮まったみたいです。
香川県	県内見積もり件数は少ないものの、山積みを抱え多忙の組合員もあり受注量の格差はあるが、県内外の協力により組合員全体としての工場稼働率は高い。しかし、現場着工の遅延などもあり計画を立てるのが非常に困難な状況も出ている。
愛媛県	稼働率は県内各社作業時間内ほぼ100%で、残業も多くの工場で1~2h年末まで続くとの事。受注単価についてはここに来て鋼材の値上がり分は受注単価に上乗せ出来てきており、「どこのFABも忙しいのでこの状況が続けば加工費も含んだ受注単価の上昇につながるのでは」との声も、但し、副資材・消耗品の値上がりが激しくこれらの客先から「見えない値上がり分」を見積にどう反映させていくか課題も残る。
高知県	稼働率は高い状況で継続している。見積は小口物件はそこそこあるが全体的に少ない、大型物件がもう少し出て欲しい。

＜ 四国支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年(令和4年) 12月分

(A)

提出日 令和5年1月11日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	四国支部活動・行事等
徳島県	1日(木)徳島・南部支部会 9日(金)理事会・忘年会 10日(土)AW(再)検定 21日(水)第9回情報交換会	
香川県	7日(水)第5回理事会 13日(火)フィットテスト講習会打ち合せ 14日(水)工場審査リハーサル 16日(金)香川県知事要望	
愛媛県	17日(土)青年部例会	
高知県	7日(水)忘年会・ゴルフコンペ	

(B)

都道府県	①受注物件件数(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
徳島県	3 ~ 10	~ 5	3 ~ 4	90 ~ 120			○			
香川県	4 ~ 7	2 ~ 5	~	90 ~ 110			○			
愛媛県	3 ~ 11	2 ~ 4	1 ~ 4	90 ~ 120			○			
高知県	5 ~	2 ~ 6	1 ~ 2	80 ~ 120			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
徳島県	手持ち工事量は3~6月まで組合員で仕事のやり取りをしている。地場物件は相変わらず少なく、秋以降、四国内では全く出していない状況。加工単価も低い状況が続いており、鋼材値上がり分は承認されるようになった部分もあるが電気代その他そのままなので今後の課題。
香川県	先月に引き続き、受注格差はあるものの協力ファブとのバランスが取れており全体としての工場稼働率は高い。また、値上がり分の価格転嫁は好転している感もあるがトータルの価格には課題がある。今後の見通しは、明るい兆しがあると思われる。
愛媛県	稼働率は年内は100%以上で仕事納め当日も残業が続くとする組合員もいる。しかし見積物件数は、四国外の大型物件の引合いを除いて県内物件、四国内物件ともに規模の大小を問わずこの数か月間少なく、来年度当初の山積に不安が残る。ただ、「中小物件の見積は急に入ってくることも多い」「昨年同様に冬場を過ぎて急激に県内外の見積も出て来るのではないか」とある程度余裕のある声も出ている。
高知県	見積は小口物件はそこそこあるが全体的に少ない、大型物件がもう少し出て欲しい。稼働率は全体的に高い状況が続いている。価格は鋼材価格の値上がりに対するある程度転嫁できているが充分な額ではない。

＜九州支部＞ 状況報告書

2022年度(令和4年度) 11月分

(A)

提出日 令和 4年 12月 1日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	九州支部活動・行事等
福岡県	11/14 福岡県建築鉄骨協議会 11/15 マスクフィットテスト講習会 11/16 技術委員会(WEB) 11/25 設計業務に関する意見交換会 11/18.22.28 全構協九州支部H部会 品質・安全パトロール(4工場)	・11/4 全構協九州支部主催 FAB・MOT講座(福岡市) ・11/5 全構協九州支部H部会研修会 岡山県「桂スチール」工場見学 ・11/21 第7回支部事務局WEB会議
佐賀県	11/10 中央会 全国大会 11/16 定性型フィットテストトレーナー育成講習会 11/17 第5回定例理事会 11/21 中央会 情報連絡会	
長崎県	11/1 検査・技術委員会・性能評価WG会議、11/4 建専協 総会・研修会出席、 11/10 中央会 全国大会出席、11/17 定性的マスクフィットテスト講習会、 11/29 理事会・11月例会・賛助会員PR・賛助会員との懇親会・溶接技術競技 会工業会表彰式、11/30 50周年記念事業委員会	
熊本県	11/9 理事会・定例会 11/11, 14, 18, 25, 28, 29 パトロール	
大分県	11/11 三役会、理事会、認定部会(対面・WEB併用開催) 11/17超音波探傷 (Gタイプ)操作手順、垂直・斜角探傷指導 11/30 Hグレードパトロール同行	
宮崎県	11/2 BCP策定講習会・賛助会員との意見交換会・懇親会開催 11/10 小林市要望活動実施 11/25 定性的マスクフィットテスト講習会開催 11/25 青年部会幹事会及び忘年会開催	
鹿児島県	11/9総務委員会・経営対策委員会 11/10青年部会役員会(web) 11/19青年 部会ゴルフコンペ・忘年会 11/25全体会議・忘年会	
沖縄県	・11/22:定例理事会、24日:沖縄建設新聞株主総会、25日:中央会研修	

(B)

都道府県	①手持工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
福岡県	3 ~ 14	2 ~ 6	1 ~ 2	80~100			○			
佐賀県	6	1 ~ 8	2 ~ 3	80~100		○				
長崎県	6 ~ 14	3 ~ 6	—	60~100			○			
熊本県	7 ~ 8	3 ~ 7	3	93.9			○			
大分県	8 ~ 14	3 ~ 6	—	90~100		○				
宮崎県	6 ~ 12	2 ~ 4	0.5 ~ 2.5	80~120			○			
鹿児島県	8~12	1~6	1~2	70~100			○			
沖縄県	1 ~ 3	1 ~ 2	1 ~ 2	50~100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
福岡県	・今後も大型物件等の影響で仕事量はあるものの図面の遅れや人手不足が懸念される。
佐賀県	・中小案件が少ない。同業者の加工応援で仕事を確保している。 ・鋼材価格の値上りした分は転嫁が出来ているが、副資材や輸送費等の上昇した分、利益が減少している。
長崎県	・見積り件数が停滞している。鋼材価格は高止まり、薄板部材の値上げが止まっていない。 ・新たな見積りや引合物件が出てきた。但し、価格は年内は交渉が厳しいが年明け物件は予算もよくなりそう。 ・各社の山積みのばらつきが大きくなっている。
熊本県	材料が高止まりしている。価格転嫁がなかなか出来ない。 商社の動きが顕著になっている。見積り物件が少ない。
大分県	◎大型物件が増えてきた。2024年度までほぼ仕事が埋まっている。◎コロナ第八波で従業員の稼働率低下が心配。◎小ロット案件が続くので出図待ち、材料待ち、段取り替え町など無駄が出ないように生産管理に注力していきたい。
宮崎県	・民間を中心に中・大型物件の見積り・引合いが増加しており、多少のばらつきはあるものの稼働率は上がってきた。 ・鋼材以外の値上がり分(副資材・輸送費・電気代・人件費)についても来年以降は交渉が進むのではないかと期待している。
鹿児島県	先々の中小物件の見積りが出て来て仕事は増えたように感じるが、全体的に物件少ないのでは?鋼材の次は消耗品、値上げの波はまだ打ち寄せて来そう。
沖縄県	・引合い物件は少ない。仕事量確保の為にグループ企業案件や他社工場の加工物件を受注するなど厳しい状況が続いている。

＜ 九州支部 ＞ 状 況 報 告 書

2022年度(令和4年度) 12月分

(A)

提出日 令和 5年 1月 6日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	九州支部活動・行事等
福岡県	12/3 青年部例会・忘年懇親会 12/14 理事会、インボイス制度に関する説明会、例会、賛助会員を交えた忘年懇親会	・12/2 九州支部事務局職員研修会(鹿児島市) (対面・WEB併用) ・12/15 第5回支部理事会、共済推進会議 (対面・WEB併用) ・12/27 第8回支部事務局WEB会議
佐賀県	12/12 工業連合会 反射炉祭り 12/16 全体会議 鋼材品質・市況についての勉強会 懇親会	
長崎県	12/7 鉄骨研究会意見交換会出席、12/9 総務・経営対策委員会、12/12 H部会パトロール、12/13 鉄骨研究会HP立ち上げ作業部会、12/20 検査・技術委員会工場サポート(後期)、検査・技術委員会、12/21 建専協県知事要望活動出席	
熊本県	12/6, 13, 15 認定サポート部会 12/12 パトロール 12/14 フィットテスト講習会 12/17 青年部会 幹事会・忘年会 12/19 鉄骨問題協議会 12/21 理事会	
大分県	12/8 三役会・理事会・BCP講習会・全員協議会・懇親会 12/12 フィットテスト講習会(第1部・第2部) 12/12中央会役員と自民党労働対策調査会意見交換(川野理事長) 12/16、12/23 工場審査打合せ	
宮崎県	12/9 中央会事務局連絡協議会・研修会 出席 12/10 鈴木一成(顧問)を励ます会出席 12/13 レディース中央会研修会出席	
鹿児島県	12/9H部会品質・安全パトロール	
沖縄県	・12/19:定例理事会、13日:営業部会、米森副会長、辰巳専務との意見交換会	

(B)

都道府県	①手持工事量(カ月)			②稼働率(%)	③見積物件の傾向			④工場加工費(千円)		
	H	M	R・J	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S造(H+H)	S造(コラムH)	SRC造
福岡県	3 ~ 12	3 ~ 6	1 ~ 2	80~100			○			
佐賀県	6	1 ~ 7	1 ~ 4	70~100		○				
長崎県	6 ~ 14	3 ~ 7	—	60~100			○			
熊本県	7 ~ 8	3 ~ 7	2 ~ 3	95.2			○			
大分県	6 ~ 16	3 ~ 6	—	90~100		○				
宮崎県	7~11	2~4	1~6	70~100			○			
鹿児島県	8~12	1~7	1~2	60~100			○			
沖縄県	1 ~ 2	1 ~ 2	1 ~ 2	50~100			○			

(C)

都道府県	現状と今後の状況の見通しについて
福岡県	・今後も大型物件等の影響で仕事量はあるものの中小物件の見積もり件数は少なく、今後の動向が不明確。
佐賀県	・仕事量は春先まで確保しているが、その後は不透明な状況である。 ・鋼材の価格転嫁はある程度出来ているが、副資材費・運搬費等の値上り分の転嫁は進んでいない。
長崎県	・見積り件数が停滞している。鋼材価格は高止まり、部材、鋼材の値上げもほぼ落ち着き始めている。 ・新たな見積物件が出てきた。但し、価格は年内は交渉が厳しいが年明け物件は予算もよくなりそう。 ・各社の山積みのばらつきが多い。
熊本県	商社の動きが顕著になっている。見積物件が少ない。 図面の承認が遅いので、予定より作図工程が遅くなり工場の工程がうまく流れない。現場労務の手配が難しくなっている。
大分県	◎大型物件が多い。2024年度まで仕事が埋まっている。◎2023年9月くらいまで仕事はある。
宮崎県	・加工費は僅かながら値上げ傾向にある。 ・九州管内の物件は多いが、県内の中小物件が少なく、会員同士、協力体制の強化が求められている。
鹿児島県	見積り件数が少しずつ増えて来て順調に受注が続いているFABも多いようだが、今後の端境期や繁忙期を見据えて協力体制の確立が必要かと思われる。
沖縄県	・引合い物件が少ない。付帯金物工事等を受注して仕事量を確保している。物価高騰が心配であるが、鉄骨価格の値崩れが起きないか心配。